



東京歯科大学広報



2009年 4・5月

236号

本号の主な内容

- ・平成21年度東京歯科大学入学式
- ・訃報 木村吉太郎名誉教授ご逝去
- ・平成21年度歯科衛生士専門学校入学式
- ・規程 東京歯科大学学則改正

■平成21年度東京歯科大学入学式挙行

平成21年度東京歯科大学入学式は、平成21年4月6日（月）午後1時から熱田俊之助理事長、金子 譲学長以下法人役員、大学役職者、教職員、父兄会及び同窓会役員、さらに新入生保護者が多数臨席する中、千葉校舎講堂において挙行された。式は本学管弦楽部と混声合唱部の現役部員及びOBによる校歌演奏・合唱に続いて佐藤 亨学生部長の開式の辞で始まり、国家斉唱後、小田 豊教務部長が新入生128名と第2学年に編入する学士編入者7名を一人ずつ呼名して紹介が行われた。

次いで金子学長から訓辞、熱田理事長から祝辞が述べられた。続いて新入生代表の吉田 航君が力強く宣誓し、小田教務部長が新入生代表の服部 力君のスーツ左襟に校章を着装された。最後に出席者一同で校歌を斉唱し、入学式を滞り

なく終了した。

式後、小田教務部長から式に参列したご来賓及び教員の紹介が行われた。

新入生及び学士編入者は、その後、学年・クラス毎に教養棟の各教室に分かれ、クラス主任、副主任と対面した後、自己紹介等が行われ、晴れて学生生活をスタートさせた。

なお、当日は午前11時より新入生保護者の希望者を対象とした学内施設見学を実施し、マルチメディア対応の第1教室や臨床基礎実習室、保存科、口腔インプラント科診察室等の施設を見て回った。保護者にとっては、ご子弟が新しい環境で学ぶ学生生活の一端にふれる機会にもなり、好評を博している。



訓辞を述べる金子学長：平成21年4月6日（月）、千葉校舎講堂



祝辞を述べる熱田理事長：平成21年4月6日（月）、千葉校舎講堂



小田教務部長より徽章を着装される新入生：平成21年4月6日（月）、千葉校舎講堂



呼名され学長に一礼する新入生：平成21年4月6日（月）、千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学
学 長 金子 謙

128名と編入学7名の計135名の新生の皆さん入学おめでとうございます。

東京歯科大学は、来年に創立120周年を迎える我が国で最も古い歯科大学です。そこで、皆さんが本学の学生として心しておいてもらいたいことを、大学の歴史から伝えておきたいと思います。

今から119年前の明治23年に、米国留学で米国の歯科開業資格を得て帰国した高山紀齋という方が歯科医学校を設立致しました。その名を高山歯科医学院と言います。この歯科医学院の学則に、学院の目的として「欧米の大学が行っている程度の高い科目を、現在の日本の歯科の現状を考慮した上で、必須の学術を教え、実際に修練させることで、高尚な歯科医を養成する」としました。つまり、「高尚なる歯科医」の養成を目標としました。そこで、入学志願者には学業はもとより「品行端正なること」「身体強健なること」を求めました。

そして、高山歯科医学院は開学10年後に同院の教師であった血脇守之助に委譲され、東京歯科医学院と改称されます。以後この血脇守之助先生は日本の歯科医学・医療、歯科医師会組織、歯科医師の法的権限、歯科の学校制度など多方面の発展に、明治後半から昭和初期の太平洋戦争まで約半世紀、その生涯を捧げるのですが、血脇先生は学生に「歯科医師である前に人間であれ」と言われました。知識と技術だけの歯科医師ではなく、一人の人間としての「精神と心あるいは魂」を持ってということ。高山先生、血脇先生の共通したお考えは「品性と教養を持つことが歯科医師への出発点だ」と理解し、これを意識して学生生活を送ってください。

「人間であれ」というこの哲学的な意味をどのように解釈するのかは、皆さんの生涯の課題になると思いますが、自然科学と人文科学の観点から皆さんはこの血脇先生の言われる「人間」という意味を「自己認識」の基盤にしてください。

東京歯科大学の学業は厳しいと言って間違いはないでしょう。しかし、学生時代はクラブ活動にも積極的であってほしいと思っています。大学はこれを人間性の涵養という意味からも支援しております。

国民の医療に対する期待は大変高く、したがって皆さんは将来その期待に応えられる力量が必要とされます。皆さんは、知識、グローバル、情報ということがキーワードとなる新しい時代で活躍することになります。このような時代の社会は多様性に富み、変化の激しいことが想定されています。したがって、皆さんが楽しい人生を送るためには、歯科医師として、人間として、変化に対応できる力が必要となります。これから体験する大学生活のあらゆる事柄はそのための訓練になると思って間違いは無いでしょう。身近な目標を積極的に達成していくことが大事です。千里の道も一歩からということ。です。

皆さんはこれから新しい環境で生活をしていきますので、その適応に悩むことも多々あるでしょう。悩む作業は「自己を認識し自己を確立」する大事な栄養になりますが、過ぎれば毒薬にもなりますので、この辺は知恵を働かせて相談することです。

東京歯科大学の学生時代を有意義に過ごすよう願っています。

祝 辞

学校法人東京歯科大学
理事長 熱田 俊之助

桜花爛漫、新春のこの佳き日に、厳しい難関を見事に突破し、入学を許可された128名の新入生の皆さん並びに7名の学士編入学の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

大学進学を目指し、重ねてこられた皆さんの努力が、ここに稔ったのであります。入学をお慶び申し上げますとともに、ご健闘に深く敬意を表します。また、保護者の皆様、手塩にかけて育てられたお子様のご入学、本当におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

本学は明治23年に開学し、来年で創立120周年を迎えます。本学の伝統は正に人本主義、ヒューマニズムの精神であり、東歯家族主義であります。

建学者である血脇守之助先生は「歯科医師である前に人間たれ」という人間教育を重視した「血脇イズム」を唱え、世界的な細菌学者、野口英世博士をはじめ、多くの優秀な人材を輩出しております。東京歯科大学を措いて日本の歯科医学を語ることはできません。

皆さんはこの伝統を承継し、世界に冠たる東京歯科大学を支え、更に素晴らしい大学に育てて頂くしたいと思います。

皆さんは、今、晴れやかな気持ちで新たな一步を踏み出されようとしておられます。

皆さんには、是非、これまでの努力をもとに、深い専門知識と、これを支える豊かな教養を育てて頂きたい。このキャンパスで人生の師、学問の師とも言うべき先生方と出会われ、ご自身を磨き、精進して頂くことを強く期待します。自ら学び、多くの人々と協力し合いながら、主体的かつ意欲的に行動できる人となって下さい。皆さんは、無限の可能性を持っています。

血脇守之助先生は「世の中は五分の真味に二分狭気、あとの三分は茶目で暮らせよ」という言葉を残されました。人は余裕を持って、五分は真面目に取り組め。二分は男気を持って、あとの三分は無邪気に過ごして下さい。昔からよく言われることですが「よく学び、よく遊べ」のことです。

これからの6年間、スポーツに、文化活動に、あるいはボランティア活動に積極的に参加し、友人を作り、先輩に学び、知識と経験を蓄積しつつ、友情を育ててほしいと思います。まちががなく、それは、皆さんの生涯を支える大きな財産になります。こころと身体の健康を大切にして、学生生活を思い切り楽しんでくださることを期待しております。

これからの皆さんの洋々たる未来の中で、本学で過ごされる一日一日を大切に、安易に流される事無く、学生生活を送られて、魅力溢れる人間となられるように、そして一層大きく成長されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

宣 誓

新入生代表

吉 田 航

本日ここに入学式を迎え、我々一同感激と希望に満ちあふれております。只今は、学長先生よりご懇篤なるご訓辞を賜り、伝統ある本学の誇りを胸に刻み、諸先生はじめ先輩の方々のご指導の下に勉学に励み、人格の陶冶に努め、学生の本分を尽くす事を誓います。

■口腔科学研究センター所長就任のご挨拶



臨床検査学研究室

井上 孝

本年4月より口腔科学研究センター所長を拝命致しました。雑感と抱負を混ぜて御挨拶とさせて頂きたいと思っております。私は毎朝新聞を読むとき科学欄から見ることにしています。昨今政治面、経済面そして社会面で明るい記事を見ることがありませんが、科学欄には、マイナス思考の記事はなく夢のある研究成果が書かれているからです。こんな明るい科学記事を題材に、若手研究者と話せることをこよなく愛する自分です。我々の世代の使命は、次世代の若手研究者の育成で、その達成には研究について、指導者と、先輩と、そして仲間や後輩と時間を忘れて語り合えることであると思っています。さて、研究の本質は、対照群に比較して、様々な条件がどの様なメカニズムで変化し、そのことには再現性があり、統計学的に有意差があることが本質です。研究には、失敗がつきものですが、そんな時にもプラス思考であることが重要だと思っています。後ろをみると悔いが残る、隣を見ると人が気になる、と言われますが、研究は、後ろをみて反省し、その理由を検討し、本質に向かって邁進することであろうと思います。

口腔科学研究センターには事務部を設置して頂き、若手研究者育成を目指すのは勿論、外部資金獲得プロジェクト、ネイチャーなど最高峰雑誌投稿プロジェクト、特許取得プロジェクトも稼働させ、教職員全てがこの波に乗れるような大きなサーフィンボードを作りたいと思います。その結果、東京歯科大学を受験する高校生が「東京歯科には口腔科学研究センターがあり、その研究が素晴らしいから」が受験の理由の一つに加われば最高です。今まで、講座、研究室単位で行われてきた研究も大変素晴らしいものであることは間違いなくと思います。しかし、大

学として、目指すいくつかのコアを充実させていく必要があります、そのためには、講座・研究室間のより一層活発な交流、他大学、他研究施設、他国、産業界などとの連携も重要になるでしょう。水道橋移転に向けて、最高の口腔科学研究センターを作り上げることが目標です。何卒宜しくお願い申し上げます。

略歴

- 昭和28年12月 東京都調布市生まれ
- 昭和47年 3月 桐朋高等学校卒業
- 昭和53年 3月 東京歯科大学卒業
- 昭和57年 4月 東京歯科大学講師(病理学第二講座)
- 昭和57年 9月 死体解剖資格認定医
- 昭和58年 6月 学位受領(歯学博士)
- 昭和58年 9月 カナダ・トロント大学歯学部留学(昭和60年8月まで)
- 平成 2年 3月 日本病理学会認定口腔病理専門医
- 平成 3年 7月 東京歯科大学助教授(病理学)
- 平成 6年 1月 アラバマ大学歯学部客員研究員(同年4月まで)
- 平成 6年 4月 九州大学歯学部非常勤講師
- 平成 7年 6月 東京歯科大学千葉病院臨床検査室長
- 平成10年 4月 新潟大学歯学部非常勤講師(平成14年まで)
- 平成10年 6月 東京歯科大学千葉病院臨床検査部長
- 平成13年 5月 東京歯科大学教授(臨床検査学)
- 平成13年 6月 東京歯科大学広報部長
- 平成14年 4月 広島大学歯学部非常勤講師
- 平成15年 1月 日本口腔インプラント学会基礎系指導医
- 平成15年 4月 岡山大学医学部非常勤講師
- 平成16年 4月 日本大学歯学部非常勤講師
- 平成16年 6月 東京歯科大学千葉病院副院長
- 平成16年 6月 東京歯科大学国際渉外部長
- 平成19年10月 FDI, Education Committee Member
- 平成20年 4月 東京歯科大学口腔科学研究センター副所長
- 平成21年 4月 東京歯科大学口腔科学研究センター所長

■講座主任教授就任のご挨拶



口腔インプラント学講座

矢島 安朝

このたび教授会のご推挙により平成21年4月1日付けを持ちまして、東京歯科大学口腔インプラント学講座主任教授を拝命いたしました。もとより浅学菲才で身に余る重責ですが、今後は臨床、研究、教育に誠心誠意努力を重ね、新たな気持ちで歯科医学、歯科医療の発展のために尽くしてゆく所存であります。

当科は、平成17年5月に千葉病院の診療科としてスタートし、その後私は、平成18年10月に口腔インプラント科の教授を拝命いたしました。翌年の平成19年4月には、診療科から口腔インプラント学研究室に昇格し、大学院生の募集も行うことができるようになりました。また、その都度、大学広報においてご挨拶もさせていただきました。現在の常勤医局員は、教授1名、講師1名、助教3名、レジデント2名、大学院生10名、臨床専門専修科生1名の合計18名となりました。

ところで、現在の歯科界・歯科大学の閉塞感、年を増すごとに強いものとなり、歯学部志願者数の減少が、現在の社会情勢を色濃く反映しているものと思います。しかし、暗い話題ばかりが先行しているこのような状況こそ、「変革」のための大きなドライビングフォースにもなり得ると考えております。大学においても、既存の構造やシステムでは動きが取れなくなりつつあるこの時を機に、大きく「変革」することが重要ではないかと思っております。今まで、懸命にほころびを繕ってきた古い革袋は、すでに修理不可能となっているのではないのでしょうか。いくら修繕してもワインは漏れてしまいます。この際、思いきって古い革袋を捨て、新しい構造やシステムに変えなければならないのではないかと考えています。当然、本学の水道橋移転もこの流れの大きな柱であろうと考えます。

口腔インプラント学講座は、本学120年の歴史の中で最も新しい講座であります。東京歯科大学口腔インプラント学講座の誕生が、今後大きな変革期に入らざるを得ないであろう本学の中で、小さな第一歩となることができるよう、日々精進を続けてゆく覚悟であります。また、口腔インプラント学講座の医局員一同、最大限の努力をしたいと堅く決意しております。

皆様方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

略歴

- 昭和55年 3月 東京歯科大学卒業
- 昭和55年 5月 第67回歯科医師国家試験合格
- 昭和55年 5月 東京歯科大学口腔外科学第1講座 特別研究生入学
- 昭和55年 7月 歯科医籍登録 第81288号
- 昭和56年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科(口腔外科学専攻)入学
- 昭和60年10月 東京歯科大学大学院歯学研究科(口腔外科学専攻)修了
- 昭和60年10月 歯学博士の学位受領(東京歯科大学)
- 昭和60年11月 東京歯科大学口腔外科学第1講座 助手
- 平成元年 9月 社団法人日本口腔外科学会認定医制度による日本口腔外科学会認定医(第314号)
- 平成 2年11月 東京歯科大学口腔外科学第1講座 講師
- 平成 6年 8月 社団法人日本口腔外科学会認定医制度による日本口腔外科学会指導医(第422号)
- 平成 7年11月 学命によりドイツ連邦共和国Hannover医科大学口腔顎顔面外科学教室に留学(客員医局員)(平成9年2月まで)
- 平成16年10月 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科科長
- 平成17年 3月 東京歯科大学口腔外科学第一講座 助教授
- 平成17年 4月 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科助教授(口腔インプラント科新設に伴い配置換え)
- 平成18年10月 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科教授
- 平成19年 4月 東京歯科大学口腔インプラント学研究室教授(研究室への昇格に伴い名称変更)
- 平成21年 4月 東京歯科大学口腔インプラント学講座主任教授(講座への昇格に伴い名称変更)
- 平成21年 4月 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科部長

■教授就任のご挨拶



化学研究室

小澤 誠

このたび教授会のご推挙により、平成21年4月1日付をもちまして化学研究室教授に就任いたしました。伝統と実績を誇る東京歯科大学の教授を拝命いたしましたことは身に余る光栄であり、その重責に身の引き締まる思いです。今後は、さらに教育、研究に尽力し、残された日々を誠実に対処する覚悟です。

私は、永年に亘り理科教育に携わってきまして、生徒が実物やモデルを観察し、実験を通して五感を働かせ、驚き、感激するのを目の当たりにして、教育への情熱を持ち続けてきました。本学においては、教える喜びを感じつつも、講義では学生が受け身になり一部の学生の合格点を取ればいいという風潮に抵抗し、教え方を反省しつつ、教材プリントや授業内容を検討し変えてきました。そして質問に来る学生を大切に、一人でも多くの学生が化学の楽しさを知って欲しいと思っています。楽しみつつ学ぶ喜びを味わい立派な歯科医として活躍し、学び続けてください。

見事希望の大学に合格した学生は、緊張が切れ、教養の授業に興味を示さなくなりがちですが、興味を引かせるように努めなければなりません。授業内容の検討、書き込み式のプリントの工夫、小テストの工夫等正解のない課題は沢

山あります。学生諸君は、数年後には人の命を預かり責任ある立場に立つわけですから、自らを律して修養し、信頼される歯科医師にならなければなりません。効率を優先する仕事のやり方は変化の時に来ています。つまり医学もそうですが、担当業務を細分化して、専門性を持たせて効率を上げていくことが当然でしたが、今はトータルで人間を見ない医学は反省点に立っています。社会や人間全体を意識して見ていく視点が求められています。学び続けましょう。

残された日々を楽しみつつ、誠実に対処していきます。

略歴

- 昭和38年 3月 千葉県立安房高等学校卒業
- 昭和42年 3月 静岡大学文理学部理学科(化学専攻)卒業
- 昭和42年 4月 千葉県立匝岫高等学校教諭
- 昭和48年 4月 千葉市立高等学校教諭
- 昭和54年 4月 千葉県立千葉東高等学校教諭
- 昭和59年 4月 千葉県立千葉西高等学校教諭
- 昭和63年 4月 千葉県立千葉東高等学校教諭
- 平成 4年 4月 千葉県総合教育センター科学技術教育部指導主事
- 平成 6年 4月 千葉県総合教育センター同主任指導主事
- 平成 7年 2月 千葉県立千城台高等学校教頭
- 平成10年 4月 千葉県立袖ヶ浦高等学校教頭
- 平成13年 4月 千葉県立浦安南高等学校校長
- 平成17年 4月 東京歯科大学化学研究室助教授
- 平成19年 4月 東京歯科大学化学研究室准教授(職名変更)
- 平成21年 4月 東京歯科大学化学研究室教授

学内ニュース

■平成21年度教育職員辞令交付式

平成21年度教育職員辞令交付式が、4月1日(水)午前10時より千葉校舎第1会議室にて開催された。

今年度の教育職員辞令交付式は、4月1日付発令の任命(2名)、採用(13名)、再任(6名)、昇任(7名)、配置替(6名)、再任・配置替(2名)、任

用継続(1名)で助手以上の教育職員37名が千葉校舎に集合し、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、井出吉信副学長、石井拓男千葉病院長、吉峯規雄事務部長がご臨席され、菅沼弘春大学庶務課長の司会進行により、金子学長から37名に辞令が交付された。

辞令交付終了後、金子学長から、本学の職員として教育はもとより研究、診療に意欲的に取り組んで歯科界をリードするよう努力願いたい旨の訓辞があった。

午前10時30分からは、同会場において4月1日付発令のポストドクトラル・フェローの更新(2名)、リサーチ・アシスタントの採用(9名)・更新(5名)とティーチング・アシスタントの採用(15名)・更新(13名)辞令が薬師寺副学長から交付され、午前11時に辞令交付式は滞りなく終了した。



金子学長の訓辞に耳を傾ける出席者：平成21年4月1日(水)、千葉校舎第1会議室

■平成21年度千葉病院レジデント辞令交付式

平成21年4月1日(水)午前9時より千葉校舎第3教室において、平成21年度千葉病院レジデント辞令交付式が行われた。式は中川寛一千葉病院副院長の開式の辞より始まり、石井拓男千葉病院長による訓辞、続いて新任レジデントおよび継続レジデント全員に辞令が交付され、無事に式は終了した。また、市川総合病院、水道橋病院のレジデントにもそれぞれの病院にて辞令が交付された。

※レジデントの氏名は、人事その他欄に掲載



訓辞を述べる石井千葉病院長：平成21年4月1日(水)、千葉校舎第3教室

■平成21年度新入生・学士編入者オリエンテーション実施

平成21年度新入生及び学士編入者を対象としたオリエンテーションが、平成21年4月7日(火)午前9時から教養棟第5教室において行われた。

学生生活に関する事項として、井出吉信副学長より「学生生活の心構え」、小田豊教務部長より「教務部の立場から」、佐藤亨学生部長より「学生部の立場から」、橋本正次教養科目協議会幹事より「教養の立場から」、ついで休憩を挟んで事務関係の説明が行われた。

午後は、大久保剛先生(千葉病院内科准教授)より「健康管理について」、中村光博第1学年主任から「校歌の紹介」について説明があり、千葉校舎及び千葉病院の施設見学が行われ、午後4時に終了した。



真剣な表情で話を聞く新入生：平成21年4月7日(火)、教養棟第5教室

■平成21年度 歯科臨床研修開始式

平成21年4月1日(水)午前1時30分より、千葉校舎歯科臨床研修医室において、千葉病院にて研修を行う94名の臨床研修歯科医ならびに関係者出席のもと、平成21年度歯科臨床研修開始式が行われた。式は高橋俊之研修管理副委員長の開式の辞に始まり、石井拓男千葉病院長より研修歯科医を代表して石上貴之研修歯科医に辞令が交付された。その後、石井千葉病院長による訓辞、角田正健研修管理委員長の挨拶が行われ、式は無事終了した。

市川総合病院では、医科と歯科の合同による臨床研修辞令交付式が、平成21年4月3日(金)午前9時から市川総合病院の第2・3会議室で開催された。当日は、安藤暢敏市川総合病院長が出張中のため山根源之市川総合病院副病院長によ

る辞令交付に始まり、西田次郎臨床研修管理委員長、山根市川総合病院副病院長・歯科臨床研修管理委員長、森下鉄夫市川総合病院副病院長、外木守雄歯科臨床研修管理副委員長並びに濱野孝子市川総合病院副病院長・看護部長からの挨拶で閉会した。引き続き、保険医療、処方仕方、医師賠償責任保険等についての講習が行われた。

水道橋病院では、平成21年4月1日(水)9時より、水道橋校舎第1・2会議室において行われた。古澤成博水道橋病院教育主任の開式の辞に始まり、古澤水道橋病院教育主任により臨床研修歯科医19名が紹介され、柿澤卓水道橋病院長より辞令が交付された。続いて、柿澤水道橋病院長より訓辞があり、開始式は終了した。



真剣な表情で話を聞く研修歯科医：平成21年4月1日(水)、千葉校舎歯科臨床研修医室



訓辞を受ける研修歯科医：平成21年4月1日(水)、水道橋校舎第1・2会議室

■平成21年度大学院歯学研究科入学式

平成21年4月9日(木)午前10時から千葉校舎第1会議室において、平成21年度東京歯科大学大学院歯学研究科入学式が挙行された。川口 充大学院教務部長の開式の辞に続き、新入生代表原 有沙さんに金子 讓学長から入学許可証が授与された。続いて金子学長の訓辞、柳澤孝彰大学院研究科長の挨拶の後、新入生を代表して原さんが宣誓し、入学式を終了した。なお、入学式に引き続き一期会賞の授賞式が行われ、一期会 西山 巖会長より原さんに表彰盾と金一封が贈呈された。



代表で宣誓をする原さん：平成21年4月9日(木)、千葉校舎第1会議室

■大学院オリエンテーション開催

平成21年4月9日(木)午後1時から千葉校舎第1会議室において、本年度の大学院新入生を対象にオリエンテーション(研究施設説明会)が開催された。

説明会は、柳澤孝彰大学院研究科長の挨拶の後、TDC-Netの活用について河田英司情報システム管理委員長、図書館の文献検索について山田 了図書館長、口腔科学研究センターについて井上 孝口腔科学研究センター所長、研究機器について石原和幸研究機器管理部長、アイソトープ研究について佐藤裕アイソトープ研究室主任、大学院選択科目について川口 充大学院教務部長、学外総合セミナーのプレゼンテーションについ

て一戸達也大学院学生部長から、それぞれ説明が行われた。



オリエンテーション風景：平成21年4月9日(木)、千葉校舎第1会議室

■第285回大学院セミナー開催

平成21年4月9日(木)午後6時より千葉校舎第2教室において、第285回大学院セミナーが開催された。今回はカリフォルニア大学ロサンゼルス校 Oral & Maxillofacial Surgery のVivek Shetty 教授を講師にお迎えして「Salivary Biomarkers of the Traumatic Stress Response following Injury」と題する講演を伺った。

特に顎顔面領域に物理的外傷を受けた患者はしばしば心的外傷も併発する。従来の主に問診による診査法では、患者の精神状態を正確に診断するのは難しい。Shetty教授は、サンプリングが簡便な唾液から、バイオマーカーを検出することにより、検出感度が高く、定量的な心的外傷の診断システムの確立を試みている。未だ特異度に課題は残るが、その発想は非常に独創的であり、また、システムが確立した場合、臨床医学領域だけでなく、雇用試験や犯罪捜査などへの応用も考えられ、社会的恩恵は計り知れな



講演されるShetty教授：平成21年4月9日(木)、千葉校舎第2教室

い。このような貴重な研究内容をわかりやすく丁寧に講演していただいた。研究内容、講演の仕方など、あらゆる面において、研究者の手本となるような講演であった。

■第286回大学院セミナー開催

平成21年4月10日(金)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第286回大学院セミナーが開催された。今回はスペイン・バジャドリド大学医学部生化学、分子生物学、生理学分野教授のシルビア・ロペス・ブリロ教授を講師にお迎えし、「Melatonin : a hormone and an antioxidant factor」と題する講演を伺った。メラトニンは必須アミノ酸のトリプトファンからセロトニンを経て合成される松果体由来の脂溶性ホルモンであるが、網膜、脳、脊髄、消化管、皮膚、骨髄などでも産生されることや植物やバクテリアにおいてもその存在が明らかになったと説明された。また、機能としては哺乳動物の概日リズムの位相変化を引き起こすことで知られているが、フリーラジカルスクベンジャー、アンチオキシダントとして、ビタミンCやレスベラトロールに匹敵、あるいはそれらを上回ることを実験結果から説明された。最後にインプラント埋入前にメラトニンを投与した犬の実験で、投与側で骨密度の増加、新生骨の増加が認められ、骨代謝にも影響をおよぼすことを説明された。

先生は、お嬢様が日本に留学中で、来日は4回目という親日家。気さくなお人柄とたいへん内容の濃い有意義なセミナーであった。



講演されるシルビア・ロペス・ブリロ教授：平成21年4月10日(金)、千葉校舎第2教室

■平成21年度 東京歯科大学教授懇親会開催

「東京歯科大学教授懇親会」は、4月14日(火)

午後6時30分からホテルニューオータニ幕張「ラピス」において開催された。

教授懇親会は、法人役員・大学幹部と本学全教授が一堂に会して懇親を深めることにより、本学教職員として結束を強め、大学の発展に寄与することを目的としたものである。

会場では、小田 豊教務部長の司会進行のもと、薬師寺 仁副学長による開会の辞から始まり、熱田俊之助理事長、金子 譲学長から挨拶が述べられた。続いて法人役員の紹介が行われ、大山萬夫監事による乾杯の挨拶によって懇親会がスタートした。

終始和やかな雰囲気では進行し、交流、懇親を深め、午後8時30分に石井拓男千葉病院長による閉会の挨拶で、今後の本学のさらなる発展を祈念し、盛会裡のうちに終了した。



挨拶される熱田理事長：平成21年4月14日(火)、ホテルニューオータニ幕張



乾杯される大山監事：平成21年4月14日(火)、ホテルニューオータニ幕張

■平成21年度新入生学外セミナー

平成21年度新入生学外セミナーが4月15日(水)から4月17日(金)までの2泊3日の日程で、木更津市の「かずさアカデミアパーク」で行われた。

本セミナーは「歯科大学1年生としての学習の

心構え」、「How to learn, how to study」、「新入生同志の親睦」の3点を目的として行われ、今回で12回目を迎えた。

新入生は15日(水)午前9時30分に大学を出発、午前11時から開講式、11時20分から金子 譲学長によるセミナー講演を受講した。昼食後、午後1時より永洞耕平千葉西警察署副署長の講演があり、午後1時50分からは河田英司教務副部長によるコンセンサス・ゲームが行われ、午後3時50分から1回目のグループ討議に入った。グループ討議は、新入生を12のグループに分け、設定されたディベートテーマについて討議された。午後6時30分からは、テーブルマナー講習会を兼ねた夕食会があり、ホテルの講師からフォーク、ナイフの使い方や食事のエチケットなどの細かなマナーについて説明を受けた。また、食事を楽しみながらテーブルに同席した先生方やクラスメートと親睦を深めた。

2日目の16日(木)は、橋本正次教養科目協議会幹事による「問題点の解決法、レポートのまとめ方」、西田次郎市川総合病院消化器科教授による「身体と心の健康管理」、本学卒業生で歯科医院開業医の外木徳子先生より「臨床医から新入生へのメッセージ(歯科医療の現場から)」と題した三つの講演と、3回のグループ討議で資料収集や発表の内容が話し合われた。その後、午後6時30分から懇親会が行われ、中村光博学生副部長による校歌の練習、ビンゴゲームなどを通じて大いに盛り上がり、友人間の親睦を深めた。懇親会で十分にリフレッシュした新入生たちは、翌日の公開ディベートに向け自主的に準備に取り組んでいた。

最終日の17日(金)は、午前9時からグループごとに3会場に分かれて「公開ディベート」が行われた。各会場において「肯定派」と「否定派」とともに、論理的・否定的な考えが活発に論じられていた。また、質疑応答も活発に行われ、充実した「公開ディベート」となった。

最後に小田教務部長による閉講の辞により、3日間に亘るセミナーを終了した。

今年は暦の関係で入学式の日程が1日ずれたため、帰路に水道橋病院並びに市川総合病院に立ち寄り見学が実施された。水道橋病院では古澤成博教育主任の進行で、柿澤 卓水道橋病院長からご

挨拶をいただき、古澤教育主任から水道橋病院スタッフの紹介、施設並びに診療システム等に関する説明を受けた後、病院内を見学した。

新入生は引き続き、市川総合病院に移動後オーラルメディスン・口腔外科講座のスタッフの先導により病院内を見学し、小休止後、講堂において外木守雄准教授の進行により、安藤暢敏市川総合病院長、山根源之市川総合病院副院長からご挨拶をいただき、各診療科部長より教育概要の説明を受けて新入生学外セミナー並びに水道橋病院、市川総合病院見学の全日程を終了した。



グループ討議に精一杯取り組む新入生：平成21年4月15日(水)、かずさアカデミアパーク



テーブルマナーの席で金子学長と話す新入生：平成21年4月15日(水)、かずさアカデミアパーク

■山本信治助教 日本口腔科学会学会奨励賞を受賞

口腔外科学講座の山本信治助教が平成21年4月16(木)、17日(金)に開催された第63回日本口腔科学会総会(会長：橋本賢二 浜松医大教授)において学会奨励賞を受賞した。学会奨励賞は前年度に日本口腔科学会雑誌に掲載された学術論文の中で、優れた内容で口腔科学の進歩発展に寄与すると認められた2編に与えられる。受賞論文は「口腔扁平上皮癌における第2・3・21番染色体上

のヘテロ接合性消失の解析—予後不良因子の可能性—と題した論文である。

これまでに山本助教らは、口腔癌の患者では2番、3番、21番染色体において高頻度にヘテロ接合性消失（以下LOH）およびマイクロサテライト不安定性といった対立遺伝子不均衡が高頻度に認められることを報告してきた。本論文では、東海大学医学部口腔外科と共同で症例数を100例に増やし、2・3・21番染色体上のLOHの発現と患者の予後との相関について特に着目し検討したところ、LOHと予後不良例との間に統計的有意差が認められ、特に、21q11.1領域のD21S369は有用な予後予測マーカーとして期待されることを明らかとした。

なお、山本助教が平成21年4月1日から北京大学口腔医院に長期海外出張中のため共著者の片倉 朗准教授が同学会で受賞講演を行った。



授賞した山本助教及び賞状：北京大学

■口科研セミナー開催「歯牙再生医療の戦略と展開」

平成21年4月20日（月）、千葉校舎第2第3セミナー室において、平成21年度口腔科学研究センター主催セミナーが開催され、東京理科大学基礎工学部生物工学科教授の辻 孝先生を講師に招いて「歯牙再生医療の戦略と展開」と題するレクチャーが行われた。

近年再生医学の領域では、各国が凌ぎを削って研究競争が行われているが、辻先生のグループはマウス歯胚から分離した上皮細胞と間葉細胞を用いて生体外で歯牙を再生させることに成功し、初めて臓器器官としての形状を再現したことで現在世界的な注目を集めている。

レクチャーでは、まず臓器再生の第一歩として歯牙をターゲットとして選択した理由について、その研究背景や臓器器官としての歯牙の持つ組織学的な特殊性、歯牙再生研究の長所・短所などが、明解な図表と歯切れのよい語りによって説明された。今回再生が可能になった歯牙は、単なる形状の複製ではなく歯牙を構成する硬組織、神経や血管を含む歯髓組織、そして歯根膜を含めた歯槽骨も再生されているが、それに加えて、1) 萌出や咬合形成の能力を有すること、2) 咀嚼に十分な硬度を持つこと、3) 歯根膜を介して顎顔面と連携すること、4) 侵害刺激に应答できる神経の再生が可能であり、かつそれが中枢によって支配されたものであることを目標として実現されたことが、豊富な実験データを用いて分かりやすく示された。

歯牙再生の成功は歯科領域のみならず、さらに大きく複雑な機能を持つ臓器再生の実現につながるひとつの基盤を築いたものと言える。歯牙再生はわれわれにとって最も身近な話題のひとつであるだけに、レクチャーは予定していた時間を大幅に上回り、学内の研究者や大学院生で満席となった会場では活発な質疑応答がなされた。今後このような研究に比肩するユニーク

て、その研究背景や臓器器官としての歯牙の持つ組織学的な特殊性、歯牙再生研究の長所・短所などが、明解な図表と歯切れのよい語りによって説明された。今回再生が可能になった歯牙は、単なる形状の複製ではなく歯牙を構成する硬組織、神経や血管を含む歯髓組織、そして歯根膜を含めた歯槽骨も再生されているが、それに加えて、1) 萌出や咬合形成の能力を有すること、2) 咀嚼に十分な硬度を持つこと、3) 歯根膜を介して顎顔面と連携すること、4) 侵害刺激に应答できる神経の再生が可能であり、かつそれが中枢によって支配されたものであることを目標として実現されたことが、豊富な実験データを用いて分かりやすく示された。



講演される辻教授：平成21年4月20日（月）、千葉校舎第2・3セミナー室



レクチャーを聴講する大学院生ら：平成21年4月20日（月）、千葉校舎第2・3セミナー室

な取組みが続々と学内からも生まれてくることが大いに期待される。

口腔科学研究センターでは、これからも歯科医学に関連する最先端の研究者を招いて、学内の研究活性化に大きな刺激となるようなレクチャーを企画していく予定である。

■第83回歯科医学教育セミナー開催

平成21年4月27日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第83回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「新年度の教育体制について」と題し、井出吉信副学長、小田 豊教務部長、望月隆二教務副部長より説明が行われた。

まず初めに、井出副学長より平成21年度入学試験の結果について、推薦入学選考(公募制、指定校制)、一般入学試験(I期、II期)等の概要が説明された。大学入試センター利用試験を導入した結果や近年の私大歯学部の入学生定員割れについて様々な角度から分析された。入学試験については、平成21年度の結果を慎重に精査し、今後対策を立てていくことが必要である旨示された。そして、平成20年度歯科医師国家試験結果については、前年に引き続き全国平均を大幅に上回る好結果だったが、国家試験の難化、6年生の留年者の対応等、重点的に対策を立てるべき事項を例に挙げ、より一層の教育内容の充実をはかる必要がある旨説明がなされた。

次に、小田教務部長より平成21年度の教務関係事項について、カリキュラムにおける変更点及び重点的に取り組むべき事項、試験、成績におけるセキュリティの確保の問題、科目試験等問題の質の向上、総合学力試験の状況、授業評価について説明された。授業評価は開始から5年間平均

値が向上しており、一定の成果が出ていると言える。教育に携わる教員はこれらの点に熟知した上で学生指導にあたってもらいたい旨の説明がなされた。

最後に望月教務副部長より今年度の新入生に対して実施した基礎理解度試験について、英語、数学、理科の正答率の傾向等が分析された。今回は初めての試みであり、新入生の理解度や学習に対する姿勢をはかる上でも非常に重要であり、今後も継続していきたい旨説明された。

当日は130名近い参加者が集まり、新年度の教育体制について皆熱心に耳を傾けていた。

■原 麻子講師 Pediatric Dental Journal 優秀論文賞受賞

平成21年5月14日(木)、15日(金)に、大阪・吹田市の大阪大学コンベンションセンターにて開催された第47回日本小児歯科学会大会において、本学小児歯科学講座の原 麻子講師が Pediatric Dental Journal 優秀論文賞を受賞した。この賞は、小児歯科学分野で優れた研究結果を挙げ、将来の発展に貢献が期待できる論文に贈られるもので、同誌に掲載された英文38編のうち、3編が受賞した。原講師の受賞論文は、“The observations of the occlusal grooves in the maxillary first and second deciduous molars with Micro-CT”で、Pediatric Dental Journal 18 (2) :102-115, 2008に掲載された。

この研究は、上顎第一および第二乳臼歯咬合面の裂溝形態について詳細な調査を行い、比較、検討を行ったものである。従来このような研究では、試料の薄切切片を作成していたが、今回、本学口腔科学研究センター(HRC)のマイクロCT装置を用いることで、試料を破壊することなく連続的で



説明する望月教務副部長：平成21年4月27日(月)、千葉校舎第2教室



受賞した原講師：平成21年5月14日(木)、大阪大学コンベンションセンター

詳細な観察を可能とした。これにより同歯の小窩裂溝部を比較した結果、上顎第一乳臼歯遠心小窩および第二乳臼歯舌側溝は深く、形態的に齶蝕の初発・好発部位になりやすいため、この領域を含む裂溝部への齶蝕予防が早期に必要なことが明らかになった。今後、小児歯科臨床への応用に、より一層の発展が期待される。

■第8回水道橋病院症例報告会開催

平成21年5月14日(木)午後4時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにて第8回水道橋病院症例報告会が開催された。この会は、紹介医の先生方との密接な病診連携をはかり、日常取り組んでいる臨床についての相互理解を深めるため毎年開催しているものである。

会の冒頭で柿澤 卓水道橋病院長より挨拶があり、今回のテーマ「知ってよかった」に則り、日常臨床で思いがけず遭遇する諸問題について、科学的根拠を踏まえた対応策を6つの講演にて提示した。「小児外傷への緊急対応・傾向と対策」(久保周平講師(小児歯科))、「多焦点眼内レンズの臨床応用」(ビッセン弘子教授(眼科))、「インプラント埋入手術・Minimal Interventionを考える」(福田謙一准教授(歯科麻酔科))・田口達夫講師(口腔インプラント科))、「成人矯正におけるMTMと咬合の再構築を考える」(宮崎晴代講師(矯正歯科))、「基礎疾患あり！薬剤投与の注意点」(笠原清弘講師(口腔外科))、「歯周治療における保険請求のかんどころ」(同窓会東京支部連合保険担当理事・高橋敬人先生)の6題の症例報告があった。各講演・発表とも、約150名を超える参加者との活発な質疑応答が行われた。同時に、ホールのロビーでは、各科によるポスター



講演する福田准教授：平成21年5月14日(木)、水道橋校舎血脇記念ホール

発表8演題と、協賛業者による展示も行われ、盛会のうちに終了した。

■ふれあい看護体験2009実施

市川総合病院では、5月23日(土)に「ふれあい看護体験」を実施した。

「ふれあい看護体験」は、看護に関心のある人や看護師を目指す人々に、実際に病院で看護を体験していただき、患者さんとのふれあいをとおして命の尊さや看護の仕事について理解と関心を深めることを目的として企画された事業である。毎年5月12日のナイチンゲールの誕生日を「看護の日」と定め、この時期に実施しており、市川総合病院では、高校生2名、一般大学生2名、計4名に参加していただいた。

当日は看護部長の挨拶、担当副看護部長より病院の概要について説明後、内科・外科の4病棟へ各1名を配置し、看護師とともに、清拭、足浴、洗髪、配膳、車椅子での散歩、経管栄養の準備などを体験していただいた。

看護体験後、参加者と看護部との懇談会を行い、参加者から「医療現場に入るのは初めてであったが、看護するには、まず、コミュニケーションが大切であることを学んだ。」「看護師はさまざまなことに気遣いながら、どんな患者さんにも柔軟に接しているのを身近で見ることができ喜びになった。」「これが医療現場の現実だと認識できる場面に直面し、これから医療を目指す自分にとってとても意味のある体験となった。」という感想をいただき、参加者4名中3名が、看護学校、看護大学への受験の決意を新たにしようである。

最近、大学卒業後、あるいは社会人から看護職を目指す人が多くなってきているが、より多くの経験を積み、人間としての豊かさを持った人達が、こうした「ふれあい看護体験」をとおして、看護職へ踏み出す機会となればと、今後も継続して実施したいと考えている。

■第84回歯科医学教育セミナー開催

平成21年5月25日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第84回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「統合型模型実習とその学習評価」と題し、新潟大学大学院医歯学総合研究科 魚島勝美教授よりご講演をいただいた。

まず初めに、現在の歯学部学生が抱えている一般的な背景から、個々の診療技能習得を統合的な理解・実践に結び付けることができる、認知領域の学習が必要であることが示された。そこで、新潟大学では、1つの模型に複数症例を含ませ、学生が治療計画を立案し実際に処置を行っていく、新たな実習用総合模型を開発し運用している旨説明された。

当実習を技能教育の柱とした「学生主体の三位一体新歯学教育課程」プロジェクトは平成18年度特色GPとして採択されたとのことである。

最後に、実習の実施による学生アンケートや実習の問題点を分析し、評価方法や新たな模型の開発など今後の取り組みについて説明された。

当日は100名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明される魚島教授：平成20年5月25日（月）、千葉校舎第2教室

■平成21年度大学院新入学生外総合セミナー

平成21年度大学院新入学生外総合セミナーが、平成21年5月27日（水）から29日（金）の2泊3日の日程で、かずさアカデミアパークにて行われた。今年は梅雨の前兆を感じさせる、あいにくの空



活発に議論を交わす大学院生：平成21年5月27日（水）、かずさアカデミアパーク

模様に見舞われたが、社会人4名を含む40名の大学院生が参加をし、これから充実した大学院生活を送れるよう多彩な内容で行われた。引率教員としては、柳澤孝彰大学院研究科長、川口 充大学院教務部長、一戸達也大学院学生部長が参加、また講演者として、河田英司教授（歯科医学教育開発センター）、佐野 司教授（歯科放射線学講座）、菅原圭亮レジデント（口腔外科学講座）が参加された。

初日は午後からの開講式に引き続き、グループ内の自己紹介を兼ね、“コンセンサスゲーム”が行われた。与えられた時間内で互いに意見交換を行い、キーワードのイメージを膨らませ解答を導き出したが、企画側の意図とは裏腹に、ほぼ全てのグループが定刻前には正解を導き出し、このセミナーに臨む学生の意気込みが感じられた。

その後、佐野教授による「医学統計学の基礎」と題した講演が行われた。講演の冒頭では、パンデミック化している“新型インフルエンザ”の話題を統計学に織り交ぜ進行され、聴講者も一様に聞き入っていた。午後4時30分からは、参加学生が6グループに分かれ、各グループ毎に与えられたテーマによる立案を行った。

2日目は、午前9時より個人発表が行われた。これは、各自がセミナー前に海外論文を読み、背景および目的・方法・結果・考察を基に、クリティカルな面も踏まえ自論を展開、各グループより選出された1名の学生がそれぞれ行った。午前10時からは、河田教授による「カリキュラムプランニング概論」と題した講演が行われ、これから教育に携わる一員となるための、方策等について語られた。その後は2回目のグループ討議が行わ



自己紹介を兼ねて行われたコンセンサスゲーム：平成21年5月27日（水）、かずさアカデミアパーク

れ、仮想研究の実施について、引率教員からの的確なアドバイスに耳を傾けていた。また、菅原圭亮レジデント(口腔外科学講座)による講演が行われ、体験談を踏まえた大学院生活が語られ、厳しい中にも充実した修学が送れるようなアドバイスがなされ、参加学生には大いに参

考になったことであろう。

最終日には、グループ発表が行われた。各グループ共有えられた研究テーマについてこの2日間に考察を深め、内容の濃い発表が行われ、最優秀グループには賞品として地元直売野菜がグループ全員にそれぞれ授与された。

訃報 木村吉太郎名誉教授ご逝去



本学名誉教授木村吉太郎先生(旧歯科保存学第二講座)は、平成21年(2009年)4月3日に逝去された。享年96。木村先生は、大正元年10月22日東京都に生まれ、昭和10年3月東京歯科医学専門学校を卒業し、

直ちに同校副手、助手として保存学教室に所属、昭和15年7月在籍のまま慶應義塾大学医学部細菌学研究室に派遣され、「日本流行性脳炎ウイルスの『マウス』体内における分布並びに臓器内増殖に関する研究補遺、特に顎下唾液腺および副腎内ウイルスに就いて」の研究論文は、昭和21年4月慶應義塾大学より医学博士の学位を授けられた。この間、昭和19年講師、同20年助教授を経て同30年東京歯科大学教授となり、同38年同大学歯科保存学第二講座(歯周療法学)主任教授、同45年4月同大学保存部長、同46年11月同大学附属病院副院長となった。同52年10月定年退職と同時に同大学名誉教授の称号を授与された。社会、学会活動としては、歯科医学の教育、研究、臨床につとめ、昭和34年2月以降厚生省歯科医師試験審議会国家試験部会委員、同45年1月及び同49年10月には同国家試験委員長を委嘱された。さらに、同50年12月に中央薬事審議会臨時委員・歯科薬剤調査員を委嘱された。また、文部省関係としては、同46年2月学術審議会専門委員、同47年6月以降大学設置審議会専門委員等の公職をその学識経験を生かし、遺憾なく発揮し各々の責務を全うした。学会面において先生は、大日本歯科医学会会長、日本歯周病学会専務理事(現職名・理事長)日本歯科保存学会理事等々を務めている。特に日本歯周病学会においては、その前身である日本歯槽膿漏学会の昭和33年4月発

足時から評議員として、更に同34年4月から理事、同38年4月から同45年3月までは専務理事(現職名・理事長)、同53年から監事として活躍し、その他の学会においてその業績は高く評価されている。これらのご功績により昭和60年11月3日、勲四等瑞宝章を叙勲された。

先生の優れた業績として「歯槽膿漏の治療・特に改良歯齦被弁手術に関する臨床ならびに病理組織成績」において従来の被弁手術法を基本的に改良したことがあげられる。これら以外に歯周疾患の罹患度測定器として、当時世界に類のない色別式盲嚢測定器を新たに開発(昭和41年1月18日に登録番号第791800号を以て実用新案原簿に登録)し、また、歯周疾患治療における負担軽減療法、口臭の原因ならびにその治療法等枚挙にいとまない多数の研究を行い発表した。尚、先生の口臭の臨床ならびに成分の分析は、我が国において創始的研究者として知られている。さらに、歯科保存学第二講座(歯周療法学)の研究では、常に時代に先端を歩み同人の研究論文は約150編におよび、その他指導学位論文は、10編の多きを数えている。このような事実は、必然的に歯科保存学第二講座の発展につながり、先生の直接薫陶を受けた50余人の子弟は、現在それぞれの分野において輝かしい業績をあげている。以上のように先生は、40余年の間歯科医学の教育者として、又、後進の良き指導者としてその職責を果たし、広い視野と崇高な人柄、教え子に対する深い愛情は各方面の人々より心から敬愛の念を以て迎えられているところであり、我が国歯科医学界に尽力した功績はまことに顕著なものであります。

心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(山田 了)

トピックス

■金子 譲学長ハイドブリンク賞受賞

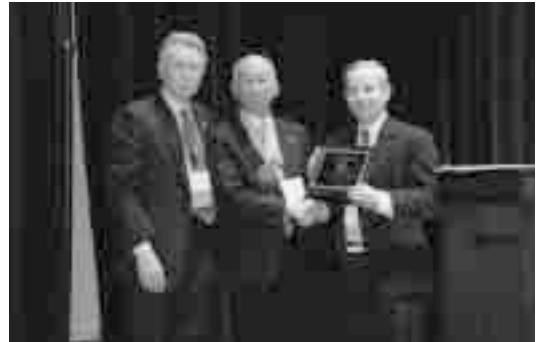
4月24日(金) ASDA (アメリカ歯科麻酔学会) において金子 譲学長がハイドブリンク賞を受賞された。昨年5月2日にASDA (アメリカ歯科麻酔科専門医会) より授与されたモンハイム賞に続く受賞で、モンハイム賞と同じくアジアでは初めての受賞となる。ハイドブリンク賞は麻酔のパイオニアと呼ばれている、Dr. Jay A. Heidbrinkに因んだASDAの最高位の賞である。Dr. Jay A. Heidbrinkは1875年ウィスコンシンに生まれ、ミシガン大学を卒業後、麻酔の発展に多くの貢献をした。この賞の第1回受賞者はDr. Jay A. Heidbrink自身で、1954年11月第1回ASDA年次総会で授与された。

授賞式に先立ちDr. Joel Weaverよりハイドブリンク賞の説明と金子学長の業績の紹介があり、つづいてASDA会長Dr. Joseph E. Carlisleより賞が授与された。

授賞式の後、「Some histories, which fostered a

Japanese dentist anesthesiologist」というタイトルで金子学長による1時間の受賞講演が行われた。

ASDAの学会誌「Pulse」掲載記事の中で、Dr. Joel Weaver (Editor, Anesthesia Progress) は金子先生の歯科麻酔分野でのすべての業績がこの賞の名付けとなったDr. Jay A. Heidbrinkの業績に匹敵するものと述べ、受賞を祝福した。



授賞式にて Dr. Joseph E. Carlisle (ASDA会長：左)、Dr. Joel Weaver (Editor, Anesthesia Progress：右)

海外交流

■チェンマイ大学歯学部長等来校

平成21年4月7日(火)、タイのチェンマイ大学歯学部から、Thongnard Kumchai 歯学部長、Anak Iamaroon 国際関係・卒後教育担当副学部長、Suttichai Krisanaprakornkit 研究担当副学部長、Sukit Kesornsri 歯科病院担当副学部長、Kassara Pattamapun 学生・特別行事担当副学部長、Sorapon Sallapant 補綴学主任、Vuttinun Chatupos 口腔外科学主任、Sumana Jittidecharaks 保存修復・小児歯科学主任他、計11名が東京歯科大学を訪問した。今回の訪問は本学との更なる交流の促進と、教育施設・研究施設・臨床現場である附属病院等の見学を目的としたものである。

一行は、4月7日(火)午前9時20分に千葉校舎に到着し、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、柳澤孝彰大学院研究科長、井上 孝国際渉外部長らの出席のもと、第1会議室において歓迎式が開催された。歓迎式は井上国際渉外部長の司会により進めら

れ、金子学長からは今後の両校の交流発展に向けて友好関係を深めていきたいとの挨拶が述べられた。チェンマイ大学歯学部からは、Thongnard Kumchai 歯学部長より歓迎に対する謝辞が述べられた。

記念品の交換と記念写真の撮影を行った後、約2時間をかけて千葉校舎および千葉病院を見学



歓迎式での記念撮影：平成21年4月7日(火) 千葉校舎第1会議室

し、昼食後午後1時に千葉校舎を後にした。一行にはかつて東京歯科大学の見学生として来日したことがある教員が参加しており、また本学にもチェンマイ大学に共同研究や研究指導のために滞在した経験のある教員があり、久々の再会に旧交を温めた。

■マヒドン大学歯学部長等来校

平成21年4月9日(木)、タイのマヒドン大学歯学部から、Somsak Chuckpaiwong 顧問Theeralaksna Suddhasthira 歯学部長、Pornrachanee Sawaengkit 国際関係担当副学部長、Waranun Buajeeb 専門担当副学部長、Panjit Chunhabundit 研究・開発担当副学部長、Bundhit Jirajariyavej 教育・学生担当副学部長、Benjapote Yotnuengnit 補綴学主任、Sroisiri Thaweboon 微生物学主任、歯科医師のNuttaya Chantarasamee 氏と教員のPeerapong Santiwong 氏の10名が千葉校舎を訪問した。

今回の訪問は同大学歯学部と東京歯科大学との間に友好協力関係を樹立するためのもので、当初昨年12月に予定されていたが、同国の政情不安により延期されたため今回の来校となった。

一行は午前8時50分に千葉校舎に到着し、午前9時から特別会議室において歓迎式が開催された。式には金子 讓学長、井出吉信副学長、柳澤孝彰大



歓迎式記念撮影：平成21年4月9日(木)、千葉校舎特別会議室

学院研究科長、井上 孝国際渉外部長、一戸達也教授らが出席し、井上国際渉外部長の司会により式は進行した。金子学長からは両校の友好関係の更なる発展に向けて親睦を深めていきたいとの挨拶が述べられ、マヒドン大学歯学部のTheeralaksna Suddhasthira歯学部長からは両校の友好関係発展への期待と訪問歓迎に対する謝辞が述べられた。

引き続き一戸教授から本学学部・大学院のカリキュラム説明が行われた。プロジェクターを用いた資料説明に熱心に聴き入る姿が見られ、質問も相次いで本学の教育カリキュラムに対する関心の高さがうかがえた。

記念品の交換と記念写真の撮影後、大学および千葉病院の施設見学を行った。行く先々で質問が相次ぎ、予定時間をオーバーする一幕もあったが、これも本学の施設や機器への関心が高いことのあるあらわれであろう。

昼食後、一行は午後1時に千葉校舎を後にして、午後1時45分に市川総合病院に到着。角膜センター第1会議室において山根源之市川総合病院副院長(歯科・口腔外科部長)より病院の概要説明があり、その後病院内の施設を見学した。午後6時からは都内において学長主催の晩餐会が催され、東京の夜景を楽しみながら両校の親睦が深められた。



千葉校舎施設見学：平成21年4月9日(木)、千葉校舎口腔科学研究センター

国際渉外部レポート

■学長主催留学生懇親会開催

平成21年3月4日(水)午後6時より、幕張のホテル・ザ・マンハッタンにて、第12回学長主催留学生懇親会が開催され、金子 讓学長、薬師寺 仁

副学長、柳澤孝彰大学院研究科長をはじめ、外国人留学生・研究者が在籍する講座の指導教官、国際渉外部運営委員会の各委員、留学生関連業務に従事する事務職のほか、平成20年度に英語

に関連する行事等で活躍のあった学生を含む総勢40名が参加した。

今回出席した外国人留学生は、解剖学講座において学位を取得された呂 玟諺先生(台湾)、台湾からの社会人大学院生の蔡 鵬飛先生(歯科麻酔学)、黄 明裕先生(歯科麻酔学)、柯 文昌先生(口腔外科学)、洪 榮杰先生(臨床検査学)、臨床検査学研究室の大学院生Sultan Khan先生(パキスタン)、日中笹川医学奨学金研究者の白玉娣先生(小児歯科学)、学部学生の金 亨俊君(韓国)、姜 東勲君(韓国)、蔡 涵雅さん(台湾)、林 士凱君(台湾)、マレーシアからの訪問研究員Ramizu Bin Shaari先生(オーラルメディシン)など5カ国12名であった。

井上 孝国際渉外部長の司会のもと、金子学長および薬師寺副学長のご挨拶があり、学長から呂先生に記念品が授与された。会の途中では留

学生が日本語を交えながら順番にスピーチを行った。最後に柳澤大学院研究科長が閉会の辞を述べ、金子学長を囲んで母国の国旗を手にした留学生らと参加者が記念撮影を行い、温かな雰囲気の中で散会となった。



出席者全員で記念撮影：平成21年3月4日(水)、幕張ホテル・ザ・マンハッタン

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

石上 恵一 [ほか] 著 「スポーツ歯科入門ハンドブック」 医学情報社、2009

松久 保隆 [ほか] 監修・執筆 「口腔衛生学」 一世出版、2009

櫻井 薫 監訳 「患者との信頼関係を築く総義歯製作法」 わかば出版、2009 (Earl Pound 著)

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、できましたらご寄贈のほどよろしく願いいたします。

■図書館ガイダンス開催

平成20年4月20日(月)から24日(金)までの5日間、千葉校舎図書館において「図書館ガイダンス」を開催した。内容は、「図書の探し方」「和雑誌文献の探し方」「洋雑誌文献の探し方」の3コースを用意し、参加者の希望に応じて行い、それぞれ蔵書検索、PubMed、医中誌Webなどのデータベースを利用した実習形式で行った。今後はPubMedや医中誌Webの実践的な使い方の講習会を企画していく予定である。



図書の探し方について説明を受ける参加者：平成21年4月20日(月)、図書館閲覧室

■次世代学術コンテンツ基盤共同構築の委託事業に3年連続採択される

国立情報学研究所(NII)が公募した平成21年度『次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業』において、本学機関リポジトリが3年連続で採択された。本学機関リポジトリ(IRUCA@TDC)は2008年2月に正式公開後、学術雑誌掲載論文を中心に登録・公開を行っている。本事業では国公立大学59大学、私立大学13大学が採択され、歯科の単科大学としては昨年、一昨年に引き続き、本学だけが採択された。本学の研究者の皆様には機関リポジトリの運用について、これからも

ご理解とご協力をお願いしたい。

〈関連リンク〉

東京歯科大学学術機関リポジトリ:

IRUCA@TDC <http://ir.tdc.ac.jp/>

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業

<http://www.nii.ac.jp/irp/>

平成21年度委託機関リスト

<http://www.nii.ac.jp/irp/rfp/2009/partners.html>

■外国雑誌の電子ジャーナル利用について

(2009年)

昨年に引き続き、次の大手出版社による電子ジャーナル(パッケージ等)が千葉、市川、水道橋の3キャンパスから利用可能となっている。また、Annual Reviewsや個別タイトル、バックファイルで新たに利用可能となったジャーナルが増えた。

・SpringerLink

(<http://www.springerlink.com/home/journals>)

Springerグループ出版社の電子ジャーナル約1,800タイトルが閲覧可能。(おおよそ1997年から現在まで)

・Science Direct (<http://www.sciencedirect.com/>)

Elsevier社の冊子購読57誌および電子オンリー購読9誌が概ね1998年より電子ジャーナルで閲覧可能。更に、ヘルスサイエンス分野の541誌、神経科学分野133誌が閲覧可能。

・Wiley Inter Science

(<http://www3.interscience.wiley.com/cgi-bin/home>)

Wiley-Blackwell社の電子ジャーナルのうち、旧Blackwell社のSTM(自然科学・科学技術・医学関連)の約400タイトル、および旧Wiley社の医学、自然科学系の約220タイトルが利用できる。概ね1997年以降が閲覧可能。

・Nature Publishing Group

(<http://www.nature.com/nature/index.html>)

Nature本誌、およびNature姉妹誌4誌およびAcademic Journal 5誌について1997年以降、閲覧可能。

・Annual Reviews

(<http://arjournals.annualreviews.org/>)

Annual Reviews 12タイトルが初号から最新まで閲覧可能。

・バックファイル

(<http://www.tdc.ac.jp/lib/jnl/#soja>)

Springer社、Science Direct(歯科分野・外科分

野)、OUP(オックスフォード大学出版局)、旧Blackwell社(歯科分野)、Annual Reviews(30タイトル)のバックファイルが利用可能。

この他に、個別タイトルの電子ジャーナルも多数閲覧可能となっている。上記パッケージも含めた2009年利用可能な電子ジャーナルは図書館ホームページ「電子ジャーナル」項の「当館所蔵フルテキスト(A-to-Z)」より検索・アクセスできる。(3キャンパス内限定)

■大村光晴先生を訪ねて

平成21年4月15日(水)武蔵野市吉祥寺にお住まいの大村光晴先生(昭和12年卒、「蜂和会」会員、97歳)を訪問し、昭和初期の東京歯科医学専門学校の様子をお伺いした。大村先生の在学された時代、本学は4年制で、充実した講義と活発なクラブ活動の中で学生生活を過ごされた。その中で血脇守之助先生や福島秀策先生の思い出や山岳部の部員として活動された様子などを話された。卒業後の7月には日中戦争がはじまり、すぐに入隊や召集が待ちうけていた。満州に渡り陸軍病院で歯科医をされていたこと、シベリアで捕虜となったというお話も伺うことができた。先生の書齋には今もなお、卒業時に贈られた血脇先生の写真が飾られているとお聞きし、母校への思いの深さが強く伝わってきた。先生からは学生会機関紙「水橋」87号(昭和9)他11冊の貴重な資料も寄贈していただいた。インタビューは同窓の上田祥士先生(昭和53年卒)にご尽力ご同席いただき、図書館員2名が記録にあたった。なお、今回の訪問は東京歯科大学創立120周年を迎えるに当たり、金子讓学長の紹介により実現したものである。

後日、以前大村先生から贈られた在学当時の記録が山岳部で発見され、口腔外科の柴原孝彦教授を通じて史料室に寄贈された。



大村光晴先生(右)とご子息大村光先生(左):平成21年4月15日(水)、ご自宅にて

歯科衛生士専門学校ニュース

■平成21年度歯科衛生士専門学校入学式

歯科衛生士専門学校第61期生の入学式は、4月3日（金）午前10時より千葉校舎講堂において、御来賓、学校関係者、在校生ならびに新入生保護者臨席のもとに厳粛な雰囲気の中で行われました。

橋本貞充学生部長の司会のもと、国歌斉唱に引き続いて、眞木吉信副校長から新入生ひとり一人が呼名・起立により紹介され、下野正基校長から緊張の面持ちで訓辞を受けた。続いて、学校法人東京歯科大学理事長の熱田俊之助先生、金子 譲東京歯科大学学長ならびに中井麗子歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞をいただいた。在校生を代表して3年生の佐藤礼奈さんが歓迎の辞を、次いで新入生代表の高橋希望さんが誓詞を述べた。新入生には歯科衛生士専門学校の徽章が校長より授与され、代表の鶴澤江里菜さんの襟に輝いた。最後に在校生のリードで出席者全員が校歌を斉唱し、式は滞りなく終了した。

入学式に続き、嶋村一郎教務部長から、ご臨席頂いた来賓の方々および教育に携わる教員と職員が紹介された。記念写真撮影の後、新入生たちはこれからの新たな3年間を過ごす教室に入り、学年主任・副主任から学校生活についてのオリエンテーションを受け、入学式のすべての日程を終了した。



入学式後の集合写真：平成21年4月3日（金）、千葉校舎講堂

訓 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
校 長 下野 正基

桜花満開、まさに春たけなわの本日、ここに東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長ならびに東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多数のご来賓のご臨席をいただき、平成21年度の入学式を迎えることができましたことは、誠に喜ばしいことと存じます。

新入生の皆さん、ならびに保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。本校の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

本校は、昭和24年、日本で最初に設立された歯科衛生士養成機関であり、本年創立60周年を迎えます。すなわち、本校の歴史は日本における歯科衛生士の歴史といっても過言ではありません。今日までの60年の間に2,108名という大変多くの卒業生を送り出してきましたが、卒業生はそれぞれ歯科医療や保健福祉の現場においてめざましい活躍をされています。

高齢社会を迎えた今、疾病構造の変化と関連して、健康に対する国民の考え方が大きく変化しており、患者のwell-being、つまり「健康で幸福な状態」やQuality of Life、つまり「生活の質」が重要であると認識されてきております。口腔疾患についても、「キュアからケアへ」といわれるように、ケアが予防の中心におかれるようになってきました。口腔疾患の予防や健康増進の視点から、歯科衛生士によるケアは疾病を有する患者のみならず、健康な人にも提供されており、歯科衛生士の活躍の場は近年ますます広がっています。

このような社会の多様なニーズに応えられる知識と技能を有する、歯科衛生士を育成するために、本校は平成元年に東京都千代田区から千葉市に移転し、平成16年度からは修業年限を3か年として、高いレベルの教育を実施しております。すなわち、大学付属千葉病院および市川総合病院という恵まれた環境での臨床実習に加えて、地域の保健所、小学校、高齢者や障害者の医療・福祉施設における臨地実習にも大きな力を注いでおります。さらに、本校は学生一人一人が研究テーマを選択し、問題発見、問題解決型学習を目指した卒業研究をいち早く導入しており、全国の歯科衛生士養成機関の注目の的となっています。

「一隅を照らす」という言葉があります。比叡山延暦寺を開いた天台宗の祖、最澄の言葉です。彼は人々を幸せに導く国宝的人材の育成のために、「天台法華宗年分学生式(てんだいほっけしゅうねんぶんがくしょうしき)」という著書を残していますが、その中で「国宝とは何物ぞ、宝とは道心なり、道心ある人を、名づけて国宝と為す、故に古人のいわく、径寸十枚、是れ国宝に非ず、一隅を照らす、此れ則ち国宝なり」と書いています。わかりやすく言うと、「国の宝とは何か、宝とは道を修めようとする心である、この道心をもっている人こそ、社会にとってなくてはならない国の宝である、だから昔の中国の人はいった、金銀財宝は宝ではない、社会の片隅にしながら、社会を照らす生活をする、その人こそが貴い国の宝である」ということです。家庭や職場など、自分自身が置かれたその場所で、ひとりひとりが精一杯努力することによって、社会全体を明るく照らしていくことが大切であると説いています。

さて、新入生の皆さんは今日の日を迎え、入学の喜びと希望に溢れていることでしょう。専門的な知識、そして高い技術を備えた歯科衛生士となるために、皆さんはこれから、歯科医学・医療に関する基礎や専門の科目はもとより、保健・福祉にわたる広い分野について学ぶこととなります。決して容易な道のりではありませんが、自分自身が置かれている「学生」という立場で、全力を尽くしてしっかり学んで下さい。そして、「一隅を照らす」の言葉のように、教室を、学校を、病院を、社会を明るく照らすことのできるすばらしい人間になっていただきたいと思います。

3年間の学生生活が心身ともに健康で、実り多いものであることを心より祈念して訓辞といたします。

誓 詞

第61期新入生代表

高橋 希望

学校長訓辞の意を体して、克く学生の本分を尽くし、必ず素志を貫徹し、本校の伝統を昂揚するよう務めることを確く誓約いたします。

■平成21年度学生会総会ならびに新入生歓迎会

新入生43名を迎え、平成21年度歯科衛生士専門学校学生会総会が4月18日(土)午前11時30分から、千葉校舎厚生棟1階において開催された。学校からは、眞木吉信副校長、嶋村一郎教務部長、および専任教員が出席した。

学生会会長の須野亜由美さんの挨拶のあと、油科裕美さんの司会進行により、平成20年度活動報告と油科さんによる会計決算が承認され、続いて平成21年度活動計画案と予算案が満場一致で可決承認された。

総会に引き続き、新入生歓迎会が開催され、テーブル一杯の色とりどりの食事をとりながら談笑し、和やかな雰囲気の中に会は進化した。最後にビンゴゲームで大いに盛り上がるなか、午後1時閉会となった。



学生全員が参加しての新入生歓迎会：平成21年4月18日(土)、千葉校舎厚生棟1階

■学外研修セミナー開催

第1学年と第2学年合同の学外研修セミナーが平成21年5月15日(金)、16日(土)に1泊2日の日程で千葉みなとの「ホテル・グリーントワー千葉」において行われた。グループディスカッション



グループでのディスカッション：平成21年5月15日(金)、ホテル・グリーントワー千葉

とその発表を行うことで、問題発見、整理、解決に取り組み、協力し合う態度を身につけ、さらに、学生同士の親睦を深めることを目的として毎年開催している。

午前10時30分より開講式がはじまり、下野正基校長からご挨拶をいただいた。最初のプログラムでは、言葉を用いることなく与えられた目的を達成するコミュニケーショントレーニングを行って、まずは全員で緊張感をほぐした。にぎやかな昼食ののち、2年生による「口腔清掃用具に関する調査」に関する報告会を行った。8つのグループに分かれ、歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、歯磨剤、そして洗口剤や染め出し液など、歯科保健指導に用いる身近な口腔清掃用具について、調査結果の発表が行われた。やっと学校生活に慣れ始めたばかりの1年生も、興味深く耳を傾け、質問をする姿も見られた。今年も、1年生と2年生がそれぞれ「うさぎ」と「くま」の2つのチームに分かれ、対抗戦が繰り広げられた。最初のグループディスカッションセッションでは、1年生は「携帯電話の弊害をなくすには」、2年生は「介護現場の人材不足を解消するには」をテーマに、学年毎に6班に分かれてKJ法によりディスカッションを行い、その結果をまとめて発表した。ホテルの宴会場でのちょっとリッチな夕食をとり一息ついた後、チームごとに6班に分かれ、今度は、1年生は「ゆとり教育」、2年生は「ワーキングシェアリングの導入について」をテーマに賛成派と反対派に分かれてディベートを行った。1グループにつき3回の対戦では、熱のこもった弁論と質疑応答が繰り広げられ、夜の9時過ぎに研修第1日目の日程を終了した。

2日目、朝7時前からのレストラン前に行列を



グループのまとめの発表：平成20年5月16日(土)、ホテル・グリーントワー千葉

つくり、バイキング形式の朝食に全員が元気な顔を見せた。8時20分から10時50分まで、1、2学年合同のグループで「医療格差をなくすには・歯科医療のあるべき姿とは」をテーマに、KJ法でアイデアを出しながらディスカッションを行い、その結果をまとめて2つの会場に分かれ2つのチームが対抗する形で発表を行った。発表についての総評が行われ、全員での記念撮影を和やかに行ったあと、2日間の研修を振り返り、最後

に研修の自己評価表と報告書をまとめて閉校式にのぞんだ。下野学校長から研修の成果についてご挨拶をいただいたあと、コミュニケーションゲームとディベート、そしてKJ法でのグループディスカッションの評価の集計で勝利した、くまチームの全員に、記念品が手渡された。そして、研修の最後に、全員で校歌を斉唱し、すべての日程を終了し解散した。

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 旭川歯科学院専門学校(学生44名、教員3名)
平成21年5月12日(火)病院、解剖標本室、歯科衛生士専門学校見学

■海外出張

- 佐藤 裕准教授(生化)
第87回IADR(International Association for Dental Research)で発表のため、平成21年3月31日(火)から4月6日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 小島佑貴(歯学部第5学年)
第87回IADRで発表のため、平成21年3月30日(月)から4月6日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 石原和幸教授(微生物)
第87回IADRに参加及び研究打ち合わせのため、平成21年3月31日(火)から4月6日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 小田 豊教授、服部雅之講師、武本真治講師(歯科理工)
第87回IADRに参加及び発表のため、小田教授は4月1日(水)から5日(日)まで、服部講師は4月1日(水)から6日(月)まで、武本講師は3月31日(火)から4月6日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 山口透子大学院生(歯科保存)
第87回IADRで発表のため、平成21年3月31日(火)から4月6日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 山田 了教授、太田幹夫講師、大井陽生臨床専門専修科生(歯周病)
第87回IADRで発表のため、平成21年3月31日(火)から4月5日(日)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 野村武史講師(口腔外科)
第87回IADRに参加のため、及びBritish Columbia大学Lewei Zhang教授との研究打ち合わせのため、平成21年3月31日(火)から4月6日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 大川恵子大学院生(歯科麻酔)
第87回IADRで発表のため、平成21年3月31日(火)から4月6日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 竜 正大助教、安井雅子大学院生(有床義歯補綴)
第87回IADRで発表のため、竜助教は4月1日(水)から、安井大学院生は3月31日(火)から、それぞれ4月6日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 茂木悦子准教授、野村真弓助教、高久佐紀子臨床専門専修科生、立木千恵臨床専門専修科生(歯科矯正)
第87回IADRに参加及び発表のため、平成21年3月31日(火)から4月5日(日)まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 佐野 司教授(歯科放射線)
第87回IADRに参加のため、平成21年3月31日(火)から4月4日(土)まで、アメリカ・マイアミへ出張。

- 監物 真大学院生、國分克寿研究支援業務者（臨床検査）
第87回IADRで発表のため、平成21年3月30日（月）から4月5日（日）まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 縣 秀栄講師（市病・麻酔科）
第87回IADRで発表のため、平成21年3月31日（火）から4月6日（月）まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 福田謙一准教授（水病・歯科麻酔科）
第87回IADRで発表のため、平成21年3月31日（火）から4月6日（月）まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 齋藤 淳講師（水病・総合歯科）
第87回IADRで発表のため、平成21年3月31日（火）から4月6日（月）まで、アメリカ・マイアミへ出張。
- 山本信治助教（口腔外科）
北京大学システムの研修と口腔がん治療の習得のため、平成21年4月1日（水）から6月30日（火）まで、中国・北京へ出張。
- ビッセン弘子教授、吉野真未助教、大木伸一視能訓練士、井上 真非常勤講師（水病・眼科）
American Society of Cataract and Refractive Surgeryに参加及び発表のため、ビッセン教授は平成21年4月4日（土）から10日（金）まで、吉野助教、大木視能訓練士は4月3日（金）から9日（木）まで、井上非常勤講師は4月2日（木）から8日（水）まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。
- 澁井武夫助教、作間 巧レジデント（口腔外科）
第50回大韓口腔外科学会に参加のため、平成21年4月9日（木）から11日（土）まで、韓国・ソウルへ出張。
- 高野正行准教授、高崎義人講師（水病・口腔外科）
第50回大韓口腔外科学会に参加及び発表のため、平成21年4月9日（木）から12日（日）まで、韓国・ソウルへ出張。
- 橋本貞充准教授（病理学）、多田美穂子講師（歯科衛生士専門学校）
International Week 2009 in Amsterdamで発表のため、及び、Inholland University of Applied Sciences, Dental Hygiene Educationとの学生交流の打ち合わせのため、平成21年4月18日（土）から28日（火）まで、オランダ・アムステルダムへ出張。
- 金子 讓学長（大学）
アメリカ歯科麻酔学会（ADSA）ハイドプリンク賞受賞式への参加・講演のため、及びオハイオ州立大学の視察のため、平成21年4月22日（水）から5月1日（金）まで、アメリカ・シカゴへ出張。
- 石上恵一教授、黒川勝英レジデント、雨宮あい大学院生（スポーツ歯学）
アジア補綴歯科学会で発表のため、平成21年4月23日（木）から27日（月）まで、韓国・ソウルへ出張。
- 角田正健教授（総合診療科）
韓国予防歯科学会春季大会で講演のため、平成21年4月25日（土）から27日（月）まで、韓国・ソウルへ出張。
- 田中一郎准教授（市病・形成外科）
第11回国際顔面シンポジウムで発表のため、平成21年4月25日（土）から5月2日（土）まで、イタリア・ローマへ出張。
- 佐藤 亨教授、村瀬俊彦臨床専門専修科生（クラウンブリッジ補綴）
25th Anniversary American Academy of Cosmetic Dentistryでの会議及び発表のため、平成21年4月26日（日）から5月2日（土）まで、アメリカ・ハワイへ出張。
- 西井 康助教、小高紅美レジデント、内田悠志大学院生、根津 崇大学院生（歯科矯正）
南カリフォルニア大学視察のため、及び109th Annual Session American Association of Orthodontistsに参加のため、平成21年4月28日（火）から5月6日（水）まで、アメリカ・ロサンゼルス、ボストンへ出張。
- 深川裕子レジデント（水病・矯正歯科）
南カリフォルニア大学視察のため、及び109th Annual Session American Association of Orthodontistsに参加のため、平成21年4月28日（火）から5月6日（水）まで、アメリカ・ロサンゼルス、ボストンへ出張。
- 片倉 朗准教授（口腔外科）
American Academy of Oral Medicine 2009 Annual Meetingに指導教員として参加のため、平成21年4月28日（火）から5月4日（月）まで、アメリカ・マイアミへ出張。

○外木守雄准教授(市病・オーラルメディシン)
American Academy of Oral Medicine 2009 Annual Meetingで発表のため、及びスタンフォード大学との共同研究打ち合わせのため、平成21年4月28日(火)から5月6日(水)まで、アメリカ・マイアミ、サンフランシスコへ出張。

○伊川裕明大学院生、齋藤寛一大学院生(市病・オーラルメディシン)
American Academy of Oral Medicine 2009 Annual Meetingに参加及び発表のため、平成21年4月28日(火)から5月4日(月)まで、アメリカ・マイアミへ出張。

○武田友孝准教授(スポーツ歯学)
Academy for Sports Dentistry 2009 Annual Symposiumで発表のため、平成21年5月5日(火)から12日(火)まで、アメリカ・シカゴへ出張。

○島崎潤教授(市病・眼科)

The 24th Congress of the Asia-Pacific Academy of Ophthalmology, APAO-AAO Joint Meetingで講演のため、平成21年5月15日(金)から20日(水)まで、インドネシア・バリ島へ出張。

○高野正行准教授、高久勇一朗助教(水病・口腔外科)

19th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgeryに参加及び発表のため、高野准教授は5月23日(土)から、高久助教は5月24日(日)から、それぞれ5月27日(水)まで、中国・上海へ出張。

○高木幸子レジデント、藤代結香大学院生(市病・オーラルメディシン)

19th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgeryに参加及び発表のため、平成21年5月24日(日)から27日(水)まで、中国・上海へ出張。

大学日誌

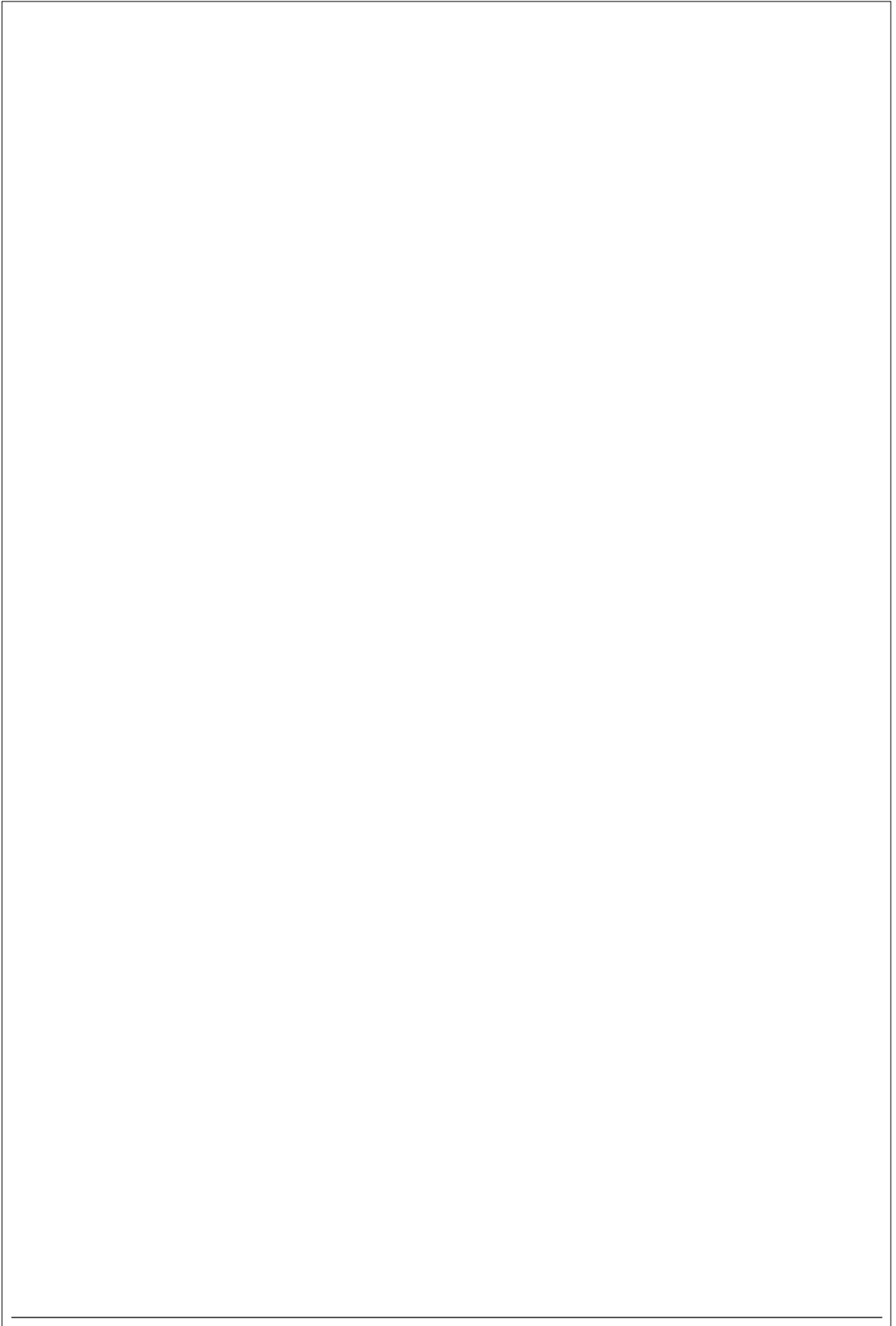
平成21年4月

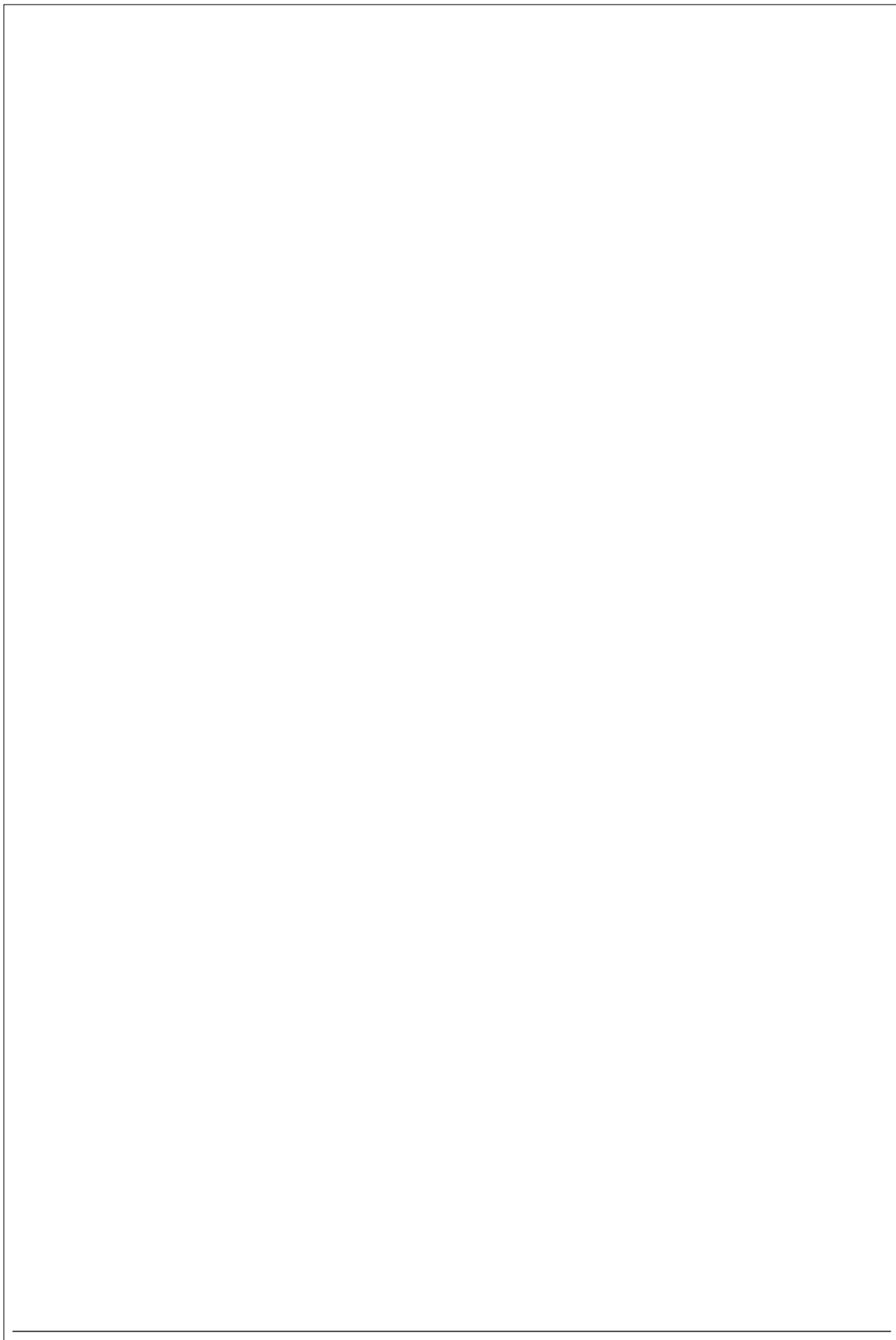
- 1 (水) レジデント辞令交付式
5年生オリエンテーション
専任教育職員辞令交付式
5年生(116期)登院式
PF・RA・TA辞令交付式
5年生登院器材刻印・検査
歯科臨床研修開始式
千葉校舎課長会
学年主任・クラス主任会
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
新入職員者オリエンテーション(市病)
辞令交付(水病)
歯科医師臨床研修開始式(水病)
臨床専門専修科生全体集合(水病)
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 3 (金) 大学院事務連絡会
歯科衛生士専門学校入学式
研修医オリエンテーション(市病)
- 6 (月) 入学式
プログラム責任者・副責任者会議
歯科衛生士専門学校2年生前期授業開始
歯科衛生士専門学校1年生オリエンテーション(~7日)

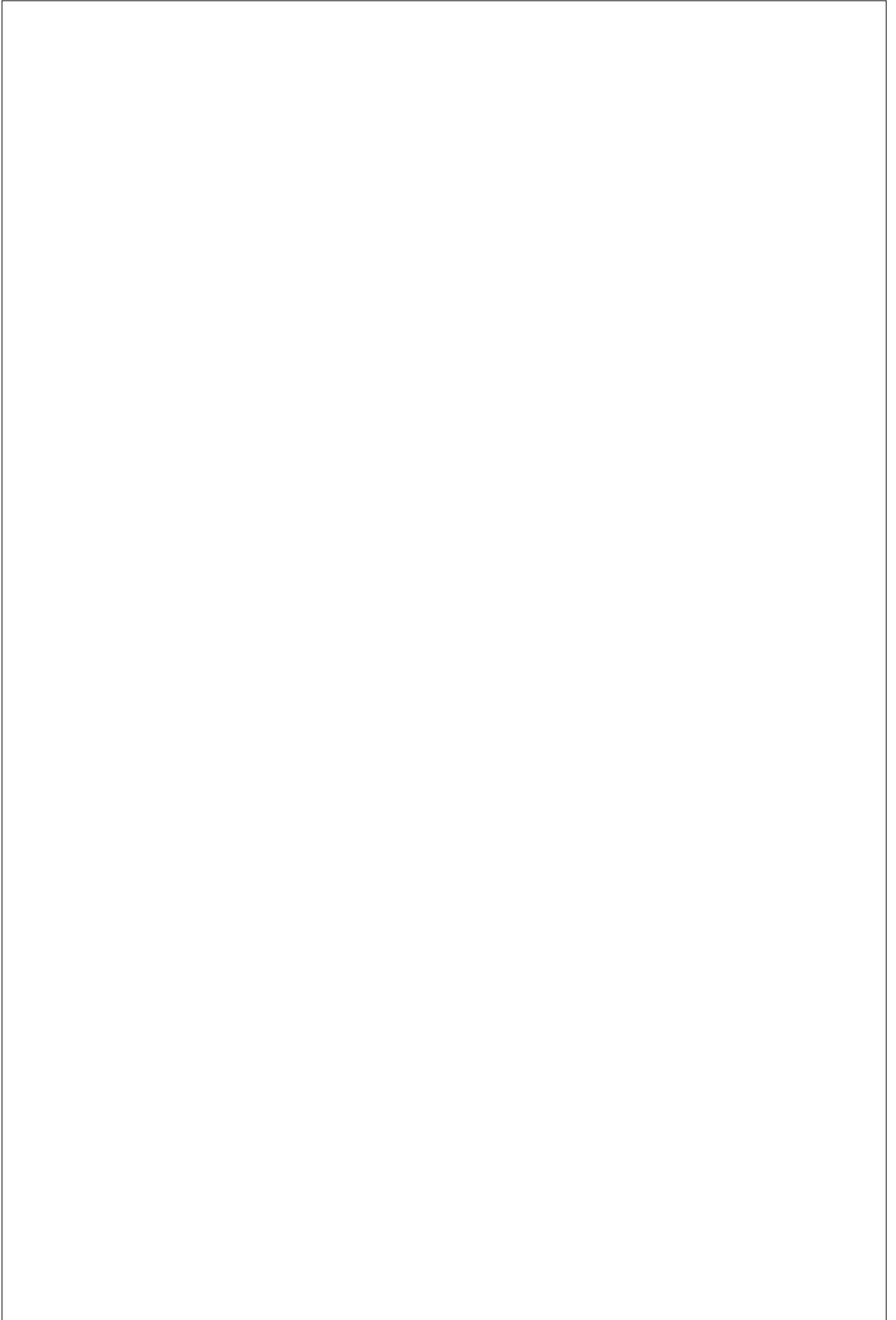
- 7 (火) 新入生・学士編入学者オリエンテーション
2・3・4年生オリエンテーション
看護部運営会議(市病)
院内褥瘡対策委員会(市病)
- 8 (水) 1・2・3・4年生前期授業開始
リスクマネージメント部会
ICT会議
基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
歯科衛生士専門学校1年生前期授業開始
救急委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病)
薬事委員会(水病)
- 9 (木) 大学院入学式
大学院オリエンテーション
医療安全管理委員会(市病)
手術室運営委員会(市病)
- 10 (金) ICT委員会(市病)
- 11 (土) 学生会主催新入生オリエンテーション
- 13 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会

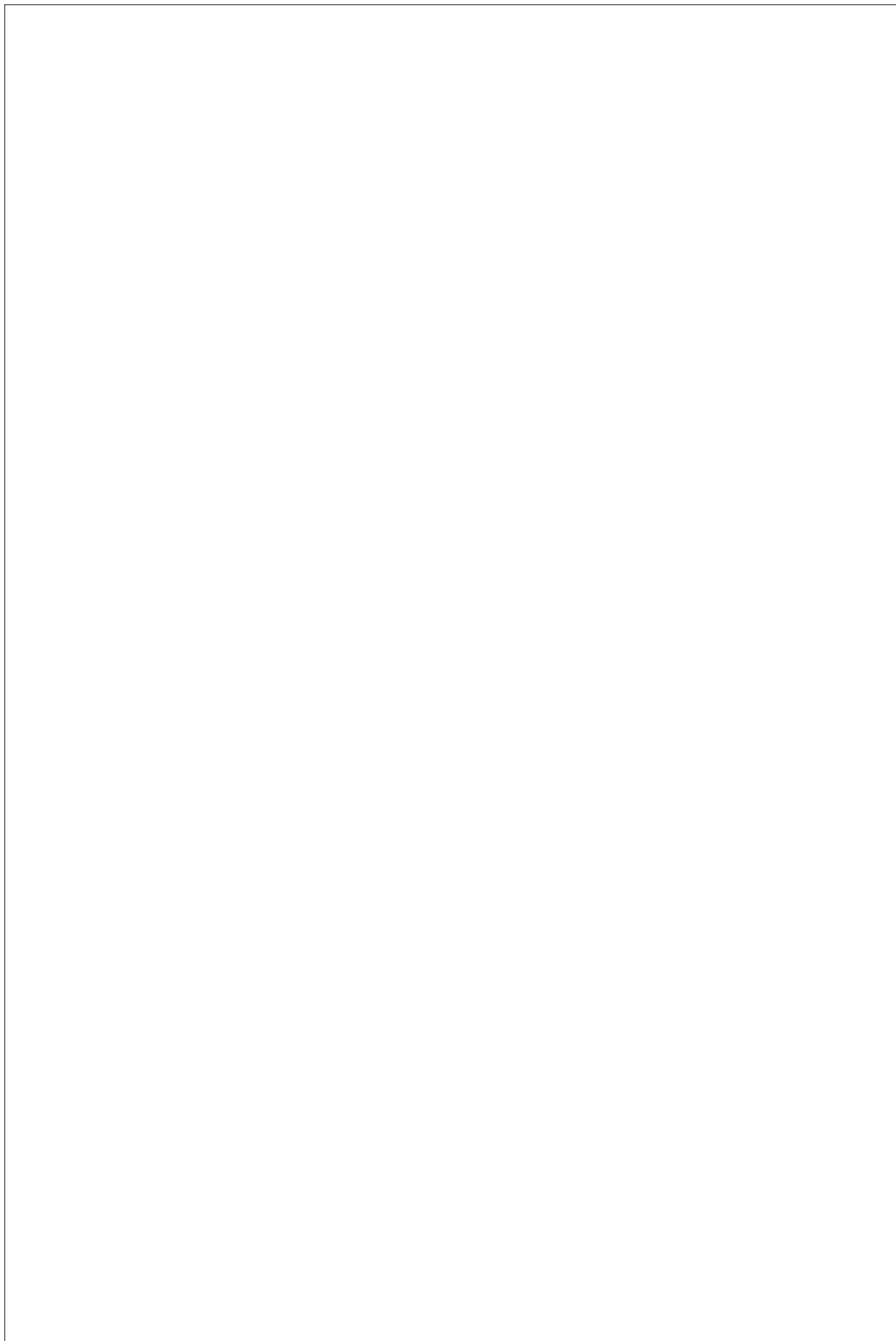
- | | |
|---|---|
| <p>13 (月) 医療安全管理委員会
感染予防対策委員会 (ICC)
臨床教育委員会
教養科目協議会
医局長会
医療安全研修会</p> <p>14 (火) 臨床修練委員会
臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
教授懇親会
歯科衛生士専門学校教員会</p> <p>15 (水) 新入生学外セミナー (～17日)
環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処理日
CPC (市病)</p> <p>16 (木) 業務連絡会
高度・先進医療委員会
部長会 (市病)
管理診療委員会 (市病)</p> <p>17 (金) 新入生水道橋校舎・病院並びに市川総合病院見学
新入生オリエンテーション (市病)
新入生水道橋病院見学 (水病)
医療安全管理委員会 (水病)
感染予防対策委員会 (水病)
個人情報保護委員会 (水病)
科長会 (水病)</p> <p>20 (月) 医療連携委員会
医療サービスに関する検討会
機器等安全自主点検日</p> <p>21 (火) 看護部運営会議 (市病)</p> <p>22 (水) 病院連絡協議会 (水病)
診療録管理委員会 (水病)
サービス向上委員会 (水病)</p> <p>23 (木) 千葉校舎課長会
院内感染症予防対策委員会 (市病)</p> <p>24 (金) クリニカルパス委員会
社保委員会 (水病)</p> <p>27 (月) 第83回歯科医学教育セミナー
電子カルテシステム運用管理委員会(市病)</p> <p>28 (火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会</p> | <p>30 (木) 1～4年生休講日 (～5月1日)
会計監査 (～5月8日) (水病)</p> <p>平成21年5月</p> <p>1 (金) 1～4年生休講日
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
監査法人会計監査 (市病)
ICT委員会 (市病)</p> <p>7 (木) 監査法人会計監査 (市病)
治験審査委員会・倫理委員会 (市病)
口腔健康臨床科学講座会 (水病)</p> <p>8 (金) 電気設備法定検査 (～10日)
監査法人会計監査 (市病)
感染予防指導チーム委員会 (水病)</p> <p>11 (月) 監査法人決算監査 (～14日)
大学院事務連絡会
プログラム責任者・副責任者会議</p> <p>12 (火) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
院内褥瘡対策委員会 (市病)</p> <p>13 (水) リスクマネージメント部会
ICT会議
看護部運営会議 (市病)
救急委員会 (市病)
リスクマネージメント部会 (水病)
薬事委員会 (水病)
放射線委員会 (水病)
臨床検査室委員会 (水病)
医薬品安全管理委員会 (水病)</p> <p>14 (木) 千葉校舎課長会
医療安全研修会
医療安全管理委員会 (市病)
手術室運営委員会 (市病)
水道橋病院症例報告会 (水病)</p> <p>15 (金) 歯科衛生士専門学校1・2年生学外研修
セミナー (～16日)
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
公認会計士監査 (15、18～22日) (水病)</p> <p>16 (土) 午後のリサイタル (市病)</p> <p>18 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会</p> |
|---|---|

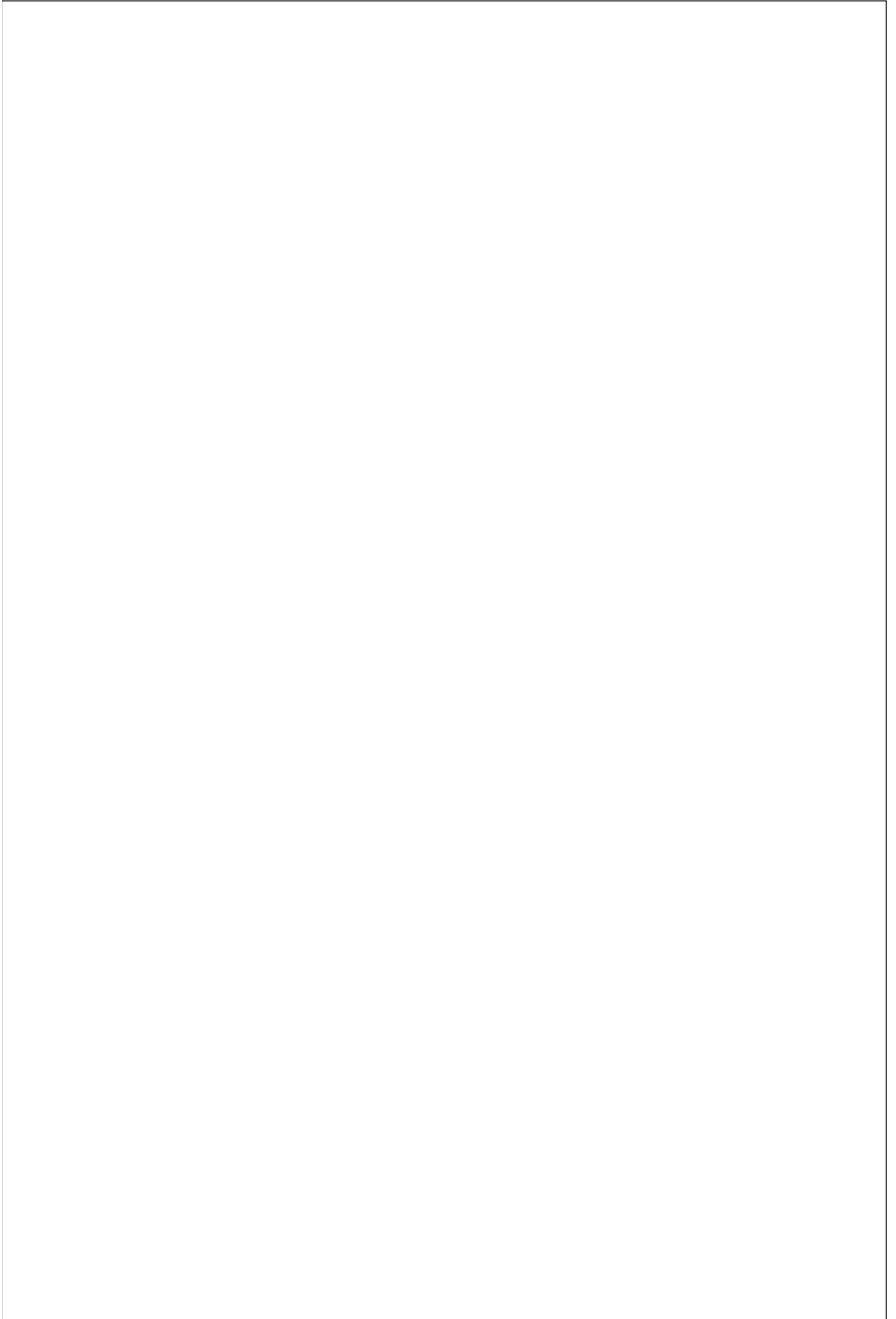
- | | |
|---|--|
| <p>18 (月) 医療安全管理委員会
感染予防対策委員会 (ICC)
臨床教育委員会
医局長会
教養科目協議会
薬事委員会 (市病)
医療安全管理委員会 (水病)
感染予防対策委員会 (水病)
個人情報保護委員会 (水病)
科長会 (水病)</p> | <p>23 (土) ふれあい看護体験 (市病)</p> |
| <p>19 (火) 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
学生部 (課) 事務連絡会</p> | <p>25 (月) 医療連携委員会
第289回大学院セミナー
第84回歯科医学教育セミナー
電子カルテシステム運用管理委員会 (市病)
教職員研修会 (水病)</p> |
| <p>20 (水) 第288回大学院セミナー
機器等安全自主点検日
CPC (市病)</p> | <p>26 (火) データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会</p> |
| <p>21 (木) 千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
部長会 (市病)
研修管理委員会 (水病)</p> | <p>27 (水) 大学院新入生学外総合セミナー (～29日・かずさアカデミアパーク)
看護部運営会議 (市病)
病院連絡協議会 (水病)
診療録管理委員会 (水病)
サービス向上委員会 (水病)</p> |
| <p>23 (土) 歯科衛生士専門学校説明会</p> | <p>28 (木) 院内感染症予防対策委員会 (市病)
管理診療委員会 (市病)</p> |
| | <p>29 (金) 6年生第1回総合学力試験 (～30日)
NST勉強会 (市病)
理事会 (法人)
評議員会 (法人)
社保委員会 (水病)</p> |

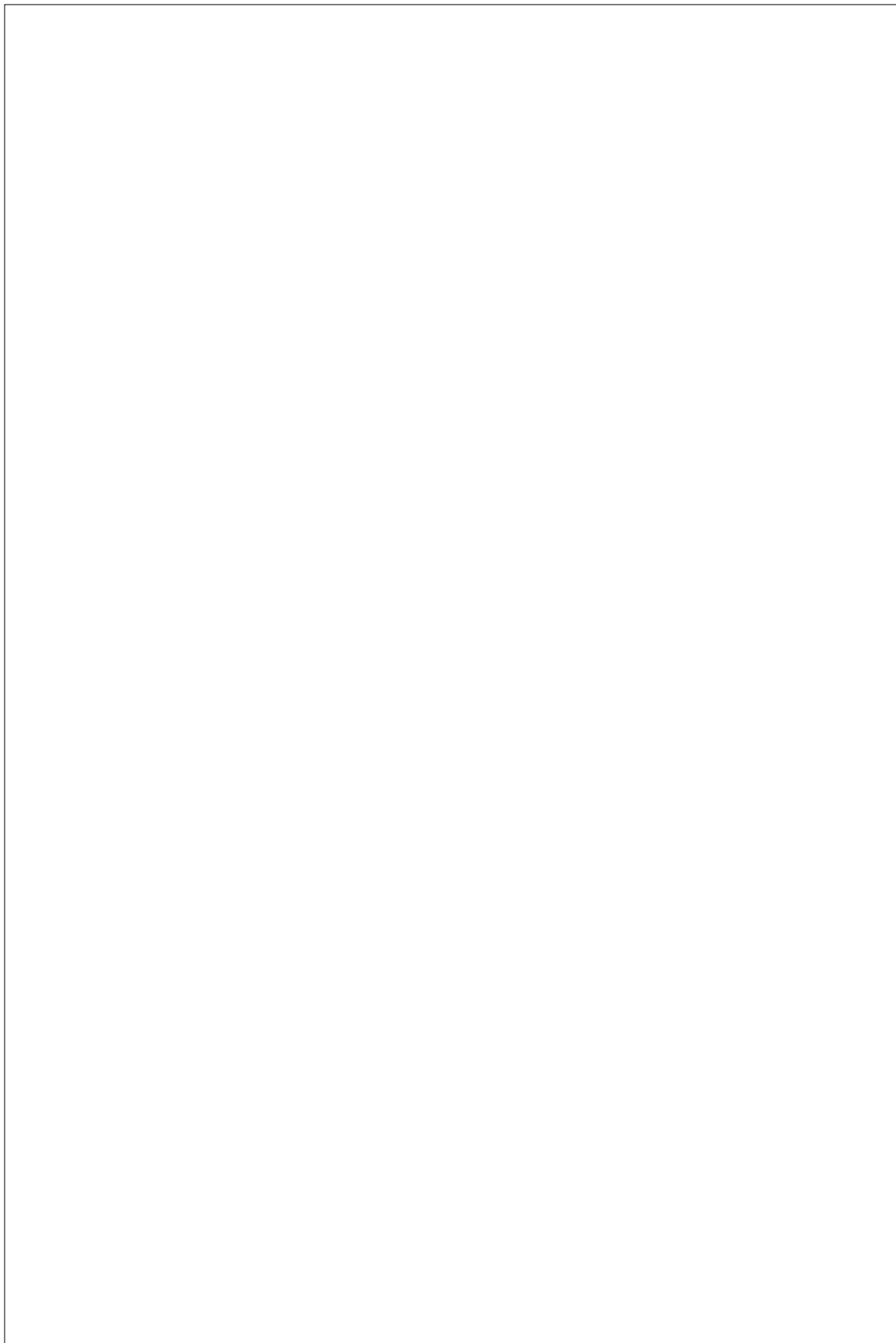


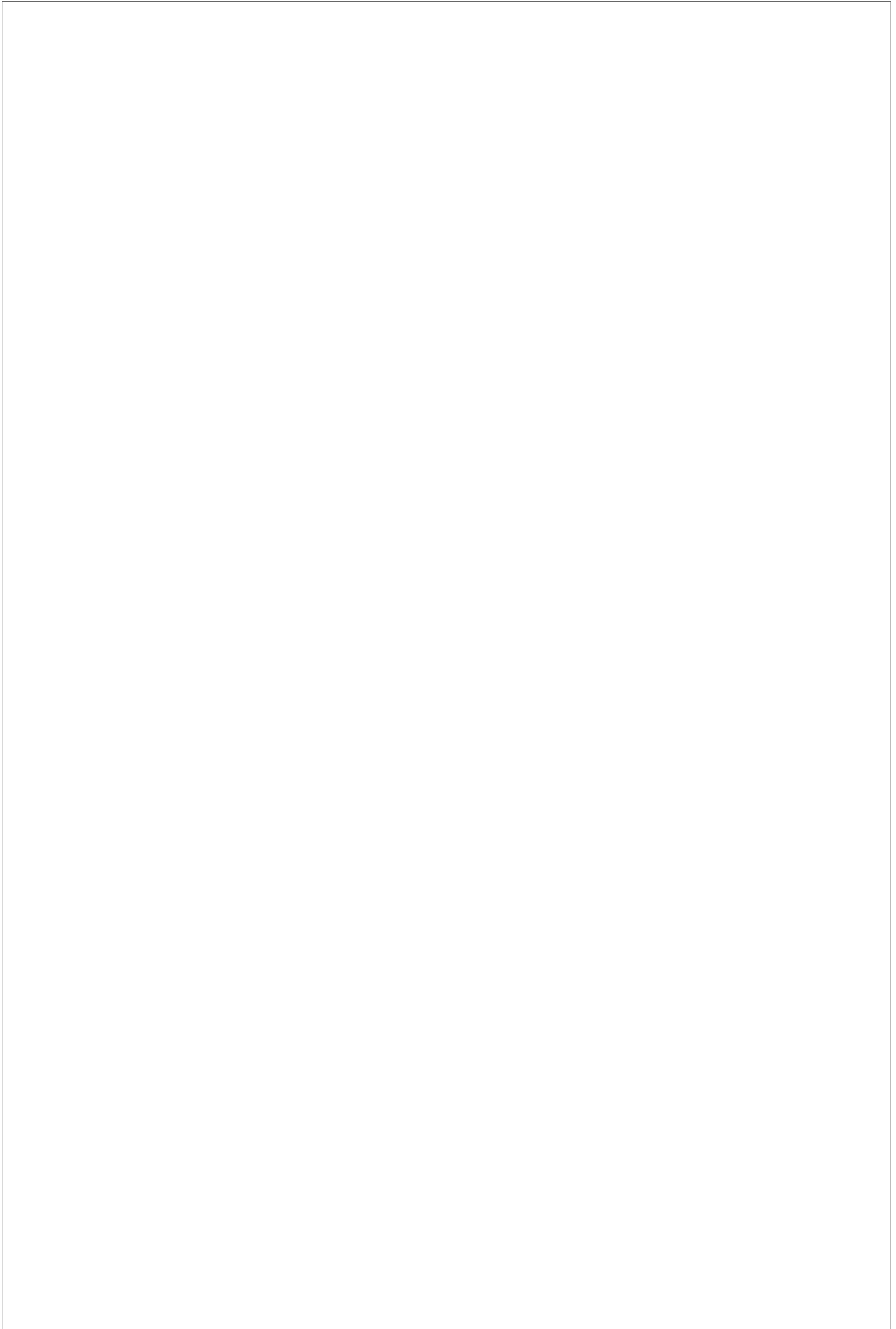


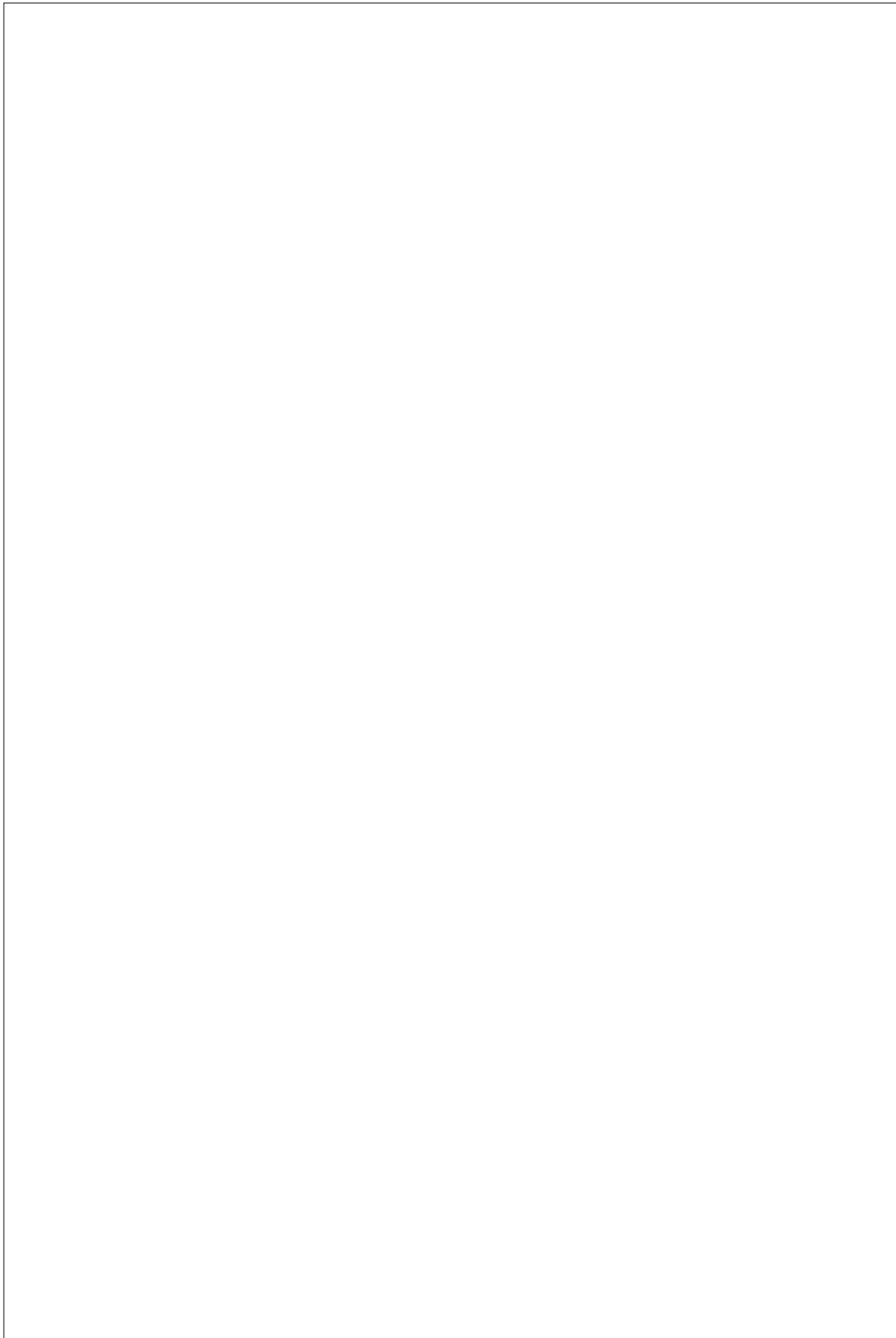


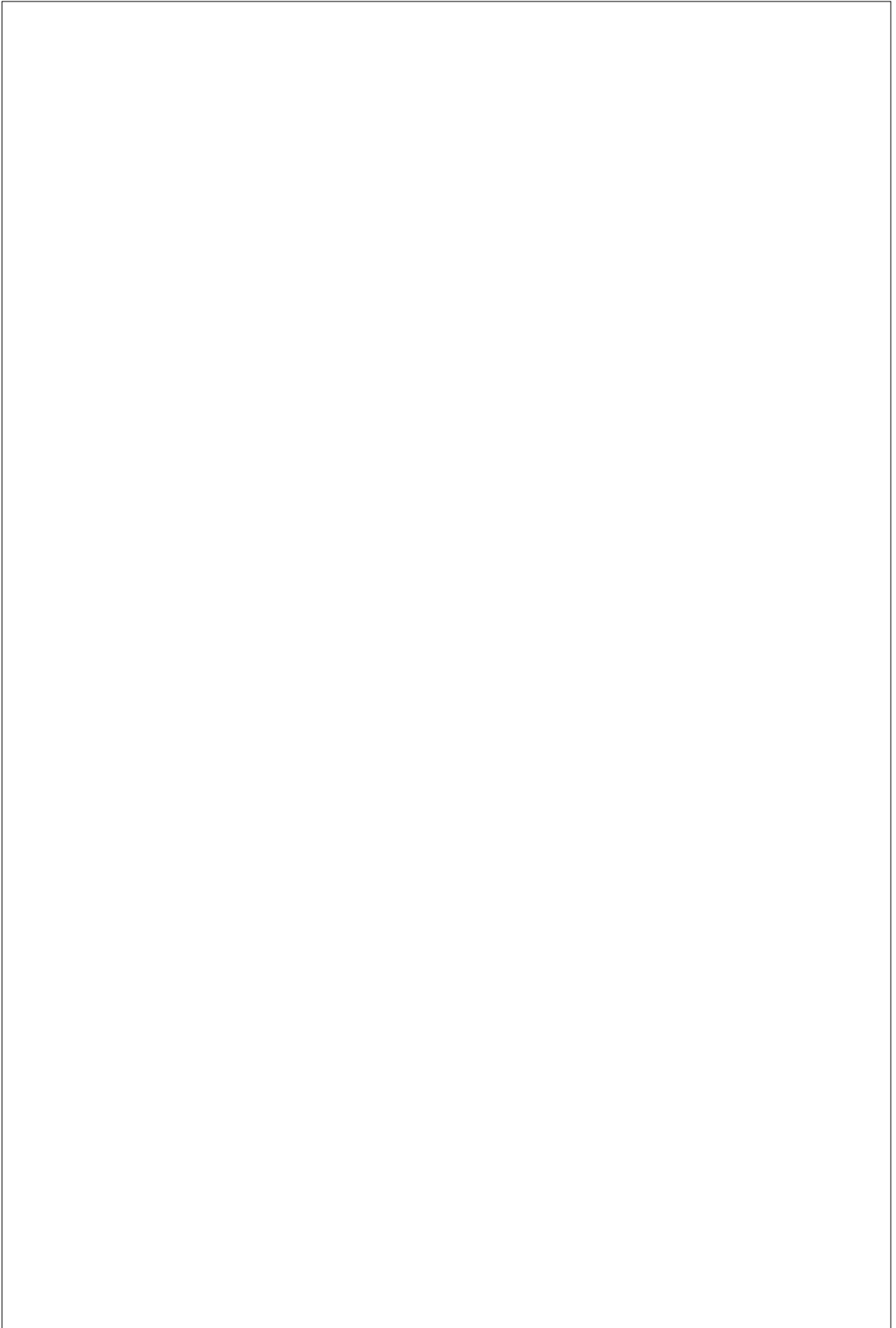












東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

井上直記 江波戸達也 王子田 啓 狩野龍二 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明
新谷益朗 田口達夫 日塔慶吉 野島靖彦 橋本貞充 前田健一郎 米津博文（平成21年5月現在）

編集後記

写真は迎賓館赤坂離宮です。あまりに荘厳、流麗な建物なので、日本ではなくヨーロッパにいるような錯覚さえ覚えます。それもそのはず、これは明治42年東宮のための御所として建てられた日本唯一のネオ・バロック様式の洋風建築物だからです。バロック建築は、カソリックの威信を保つため17世紀にローマでおこり、その後フランスに継承され、絶対王政のブルボン朝ルイ14世の時世に絶頂期を迎えました。有名なパリ郊外のベルサイユ宮殿、ウィーンのシェーンブルン宮殿などが代表的な建築です。ネオ・バロックとは、厳格な左右対称、角形ドーム、付け柱などを特徴とした帝国主義国家の威信を表現する様式で、19世紀後半ナポレオン3世のフランスで復興されたといわれております。

この離宮は、昭和42年に迎賓施設として整備されること
が閣議決定され、改修されました。迎賓館とは、外国の首脳や元首などの国賓を迎え入れたときに宿泊その他の接遇を行なうための国の施設で、賓客の滞在中は首脳会談、署名式、晩餐会など様々な外交活動が行なわれます。新装成った昭和49年、最初の国賓として迎えられたのは第38代アメリカ合衆国フォード大統領です。

本広報の掲載期間にも本学には、アメリカ、スペイン、タイ、パキスタン、韓国など多くの大切なお客様が来校されました。二畳台目の小さな茶室でも主が客のため馳せ走る、分に応じた真の馳走をほどこす接遇が古来より日本にあります。規模の大小にかかわらず、主催者の心をこめたおもてなし、hospitalityが人の交わりに大切であるとあらためて感じられます。

（広報・公開講座部長：内山健志）



赤坂迎賓館